

2006年3月期 SBIグループ決算説明会

2006年4月27日

本資料に掲載されている事項は、SBIグループ各社の業績、事業戦略等に関する情報の提供を目的としたものであり、各社の発行する株式その他の有価証券への投資の勧誘を目的としたものではありません。なお、各社は、本資料に含まれた情報の完全性及び事業戦略など将来にかかる部分については保証するものではありません。また、本資料の内容は予告なしに変更又は廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。

1. 連結決算業績

連結決算業績のハイライト

- ① 全事業が極めて好調に推移し、売上高・営業利益・経常利益・当期純利益の全てにおいて過去最高を大幅に更新した。
- ② 売上高は1,000億円を大きく超え、会計上の表示区分の変更[※]にもかかわらず、経常利益も500億円を突破した。
- ③ グループ内再編や、当社グループとシナジーを有すると考えられる有力企業との株式持合を行った結果、期末発行済株式数は1,222万株（前期末対比1.4倍）に増加したが、1株当たり当期連結純利益は前期対比で1.4倍、同連結株主資本は前期末対比で1.5倍と、株主価値を高めながら、将来の成長の布石をうつことができた。
- ④ 好調な業績推移を勘案し、1株あたり配当金は前期の350円から、600円（合併記念配100円を含む）と大幅増配の予定。

※ ファンドへの自己出資相当分に関わる損益のうち、子会社株式の売却益相当額について、営業投資有価証券売上高、同売上原価の計上による営業利益から、同売却益相当額の特別利益計上へ、会計上の表示区分を変更いたしました。

なお、当期における同表示区分変更影響額は、28億円であります。

2006年3月期 連結決算業績

(単位:百万円)

	2005年3月期 通期	2006年3月期 通期 ^{※1}	前年同期比 増減率 (%)
売 上 高	81,511	137,247 ^{※2}	+ 68.4
営 業 利 益	24,869	49,595 ^{※2}	+ 99.4
経 常 利 益	27,291	51,365	+ 88.2
当期純利益	25,631 ^{※3}	45,884 ^{※3}	+ 79.0

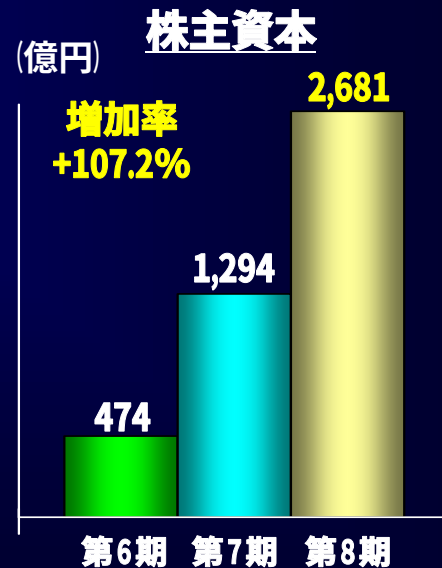
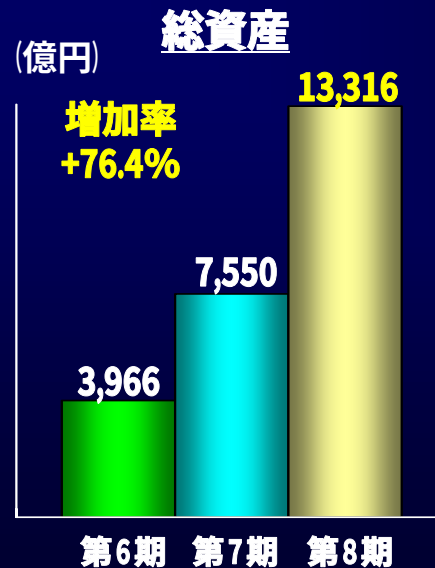
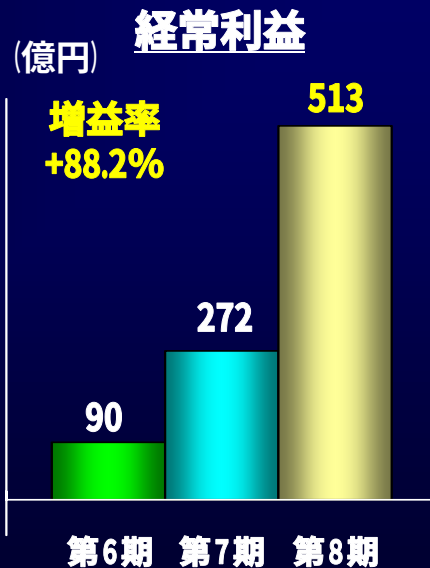
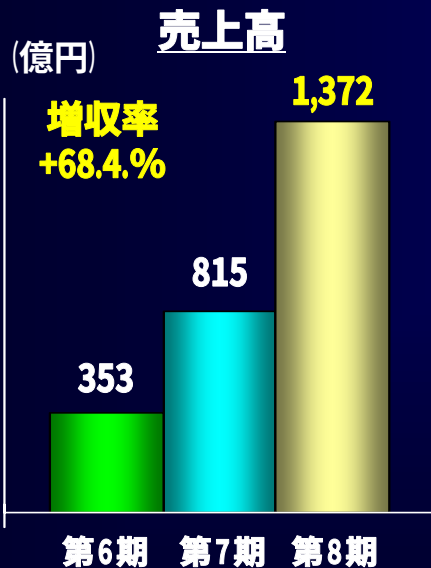
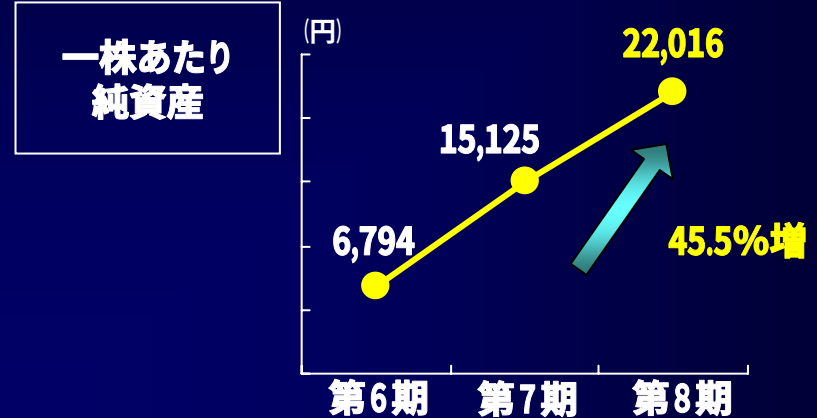
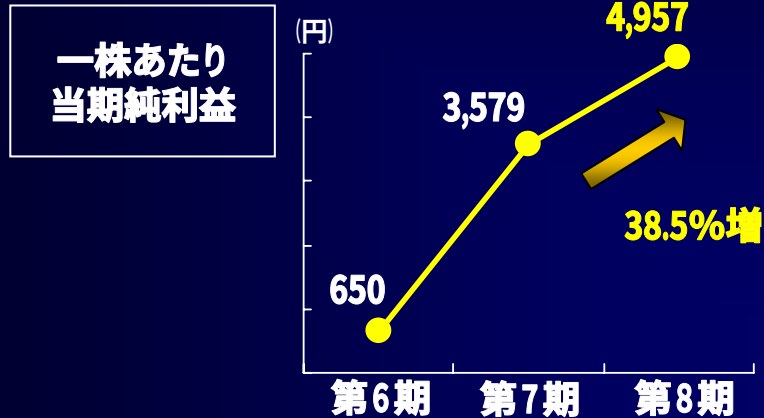
※1 SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月から合併前の2006年2月までの業績を加算しております。

※2 従来表示区分から、売上高3,196百万円、売上原価366百万円を減じ、その差額2,830百万円の営業利益相当額を特別利益としました。

※3 2005年3月期はイー・トレード証券のみなし売却等に伴う133億円の特別利益を、2006年3月期はイー・トレード証券のみなし売却に伴う230億円の特別利益をそれぞれ計上しております。

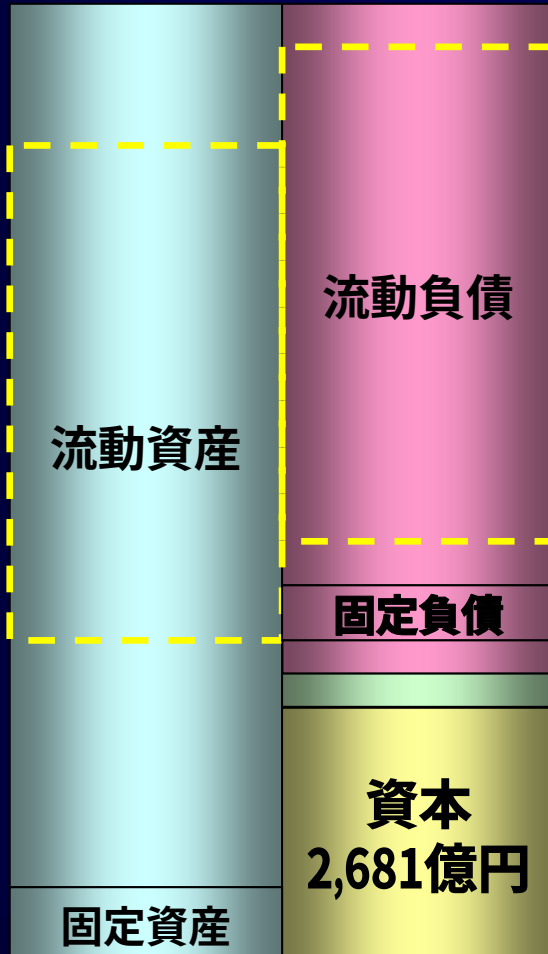
業績・財務構造の推移

一株あたりの価値を高めながら、さらなる成長ステージに向けた飛躍を目指す



自己資本比率 (2006年3月末)

総資産 1兆3,316億円

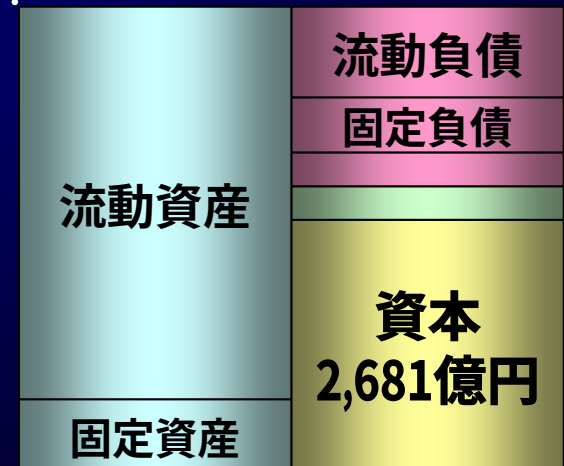


※証券勘定

※信用取引負債
有価証券担保借入金
受入保証金
預り委託証拠金
顧客預り金

証券勘定を除いた
自己資本比率は
48.7%

総資産 5,508億円



自己資本比率 20.1%

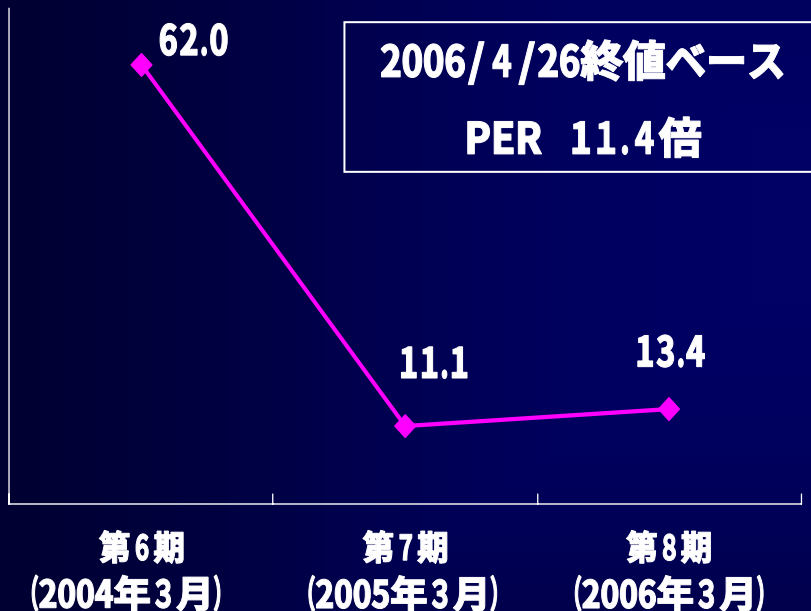
48.7%

PER・PBRの推移

現在は歴史的安値圏

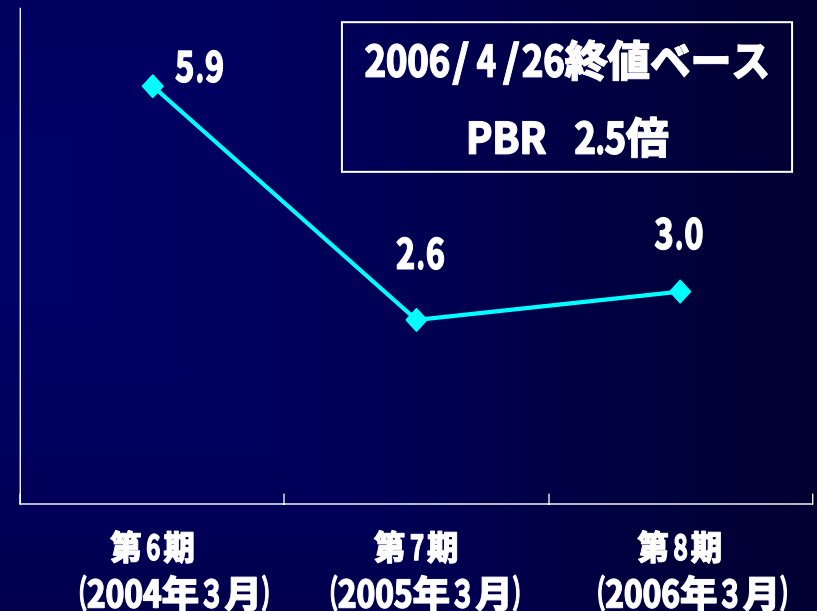
PER (株価収益率) ※1

(倍)



PBR (株価純資産倍率) ※2

(倍)



※1 株価収益率 (第6期、第7期及び第8期) = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり当期純利益)

株価収益率 (2006/4/26終値ベース) = 2006/4/26当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期当期純利益)

なお第8期末株価終値は66,600円、2006/4/26株価終値は56,900円

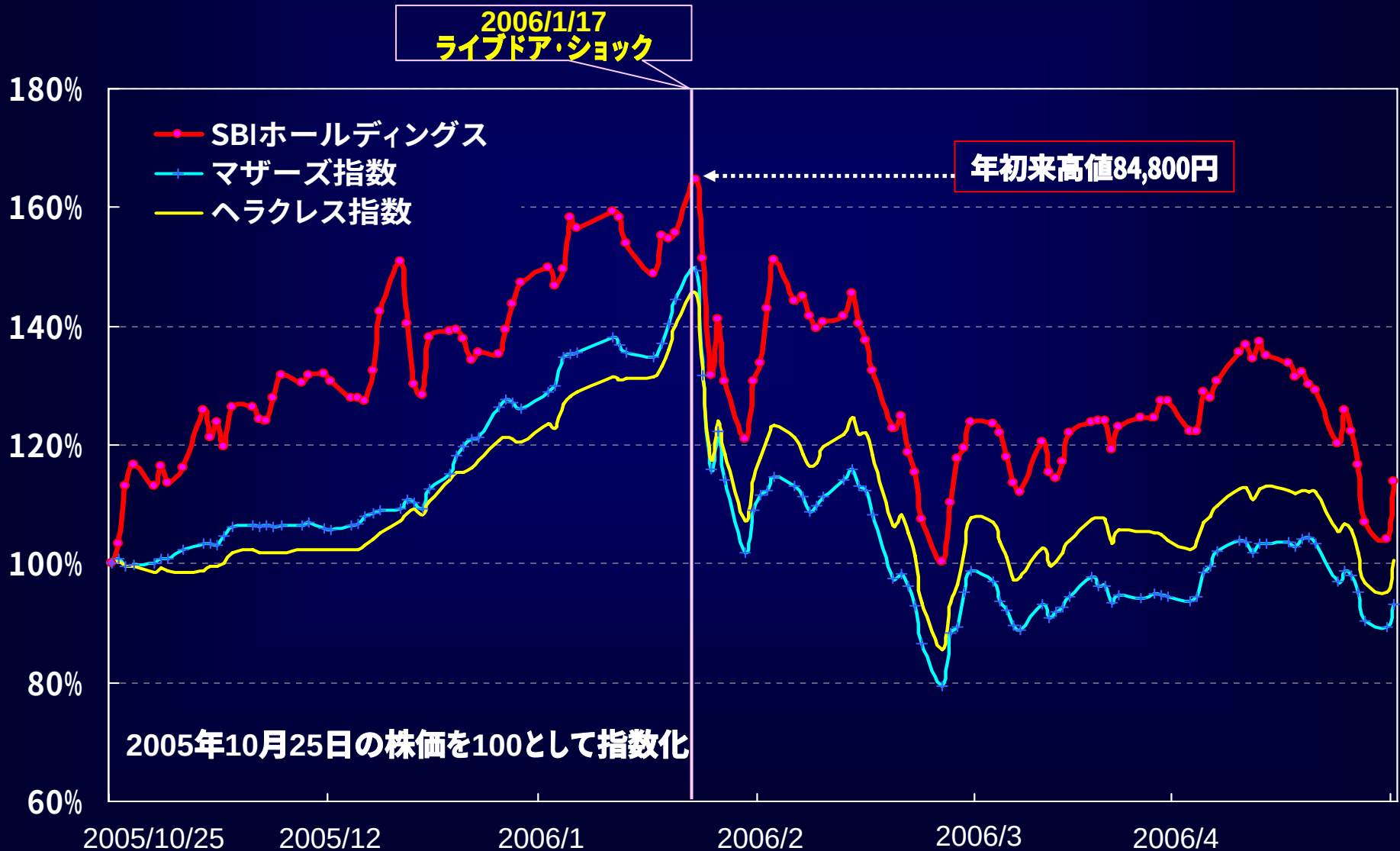
※2 株価純資産倍率 = 各期末当社東証終値 ÷ (一株あたり期末純資産)

株価純資産倍率 (2006/4/26終値ベース) = 2006/4/26当社東証終値 ÷ (一株あたり第8期末純資産)

マザーズ指数、ヘラクレス指数との相関関係

2005/10/25～2006/4/25の期間におけるマザーズ指数との相関係数は**0.88**、ヘラクレス指数とは**0.90**

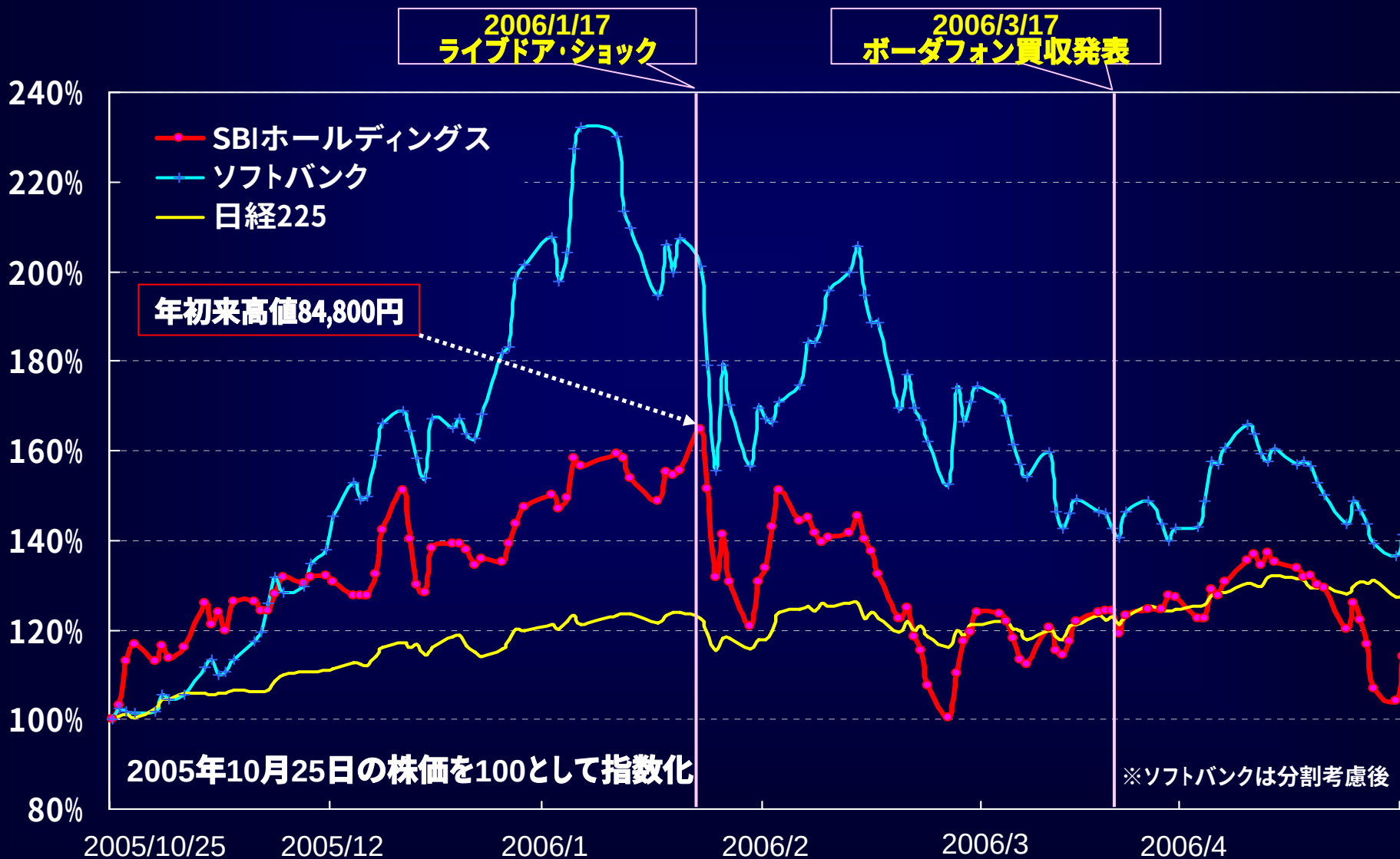
ライブドアショック以降のマザーズ指数との相関係数は**0.94**、ヘラクレス指数とは**0.96**



ソフトバンク株価との相関関係

2005/10/25～2006/4/25の期間におけるソフトバンクの株価との相関係数は**0.75**

ボーダフォン買収発表以降のソフトバンクの株価との相関係数は**0.84**

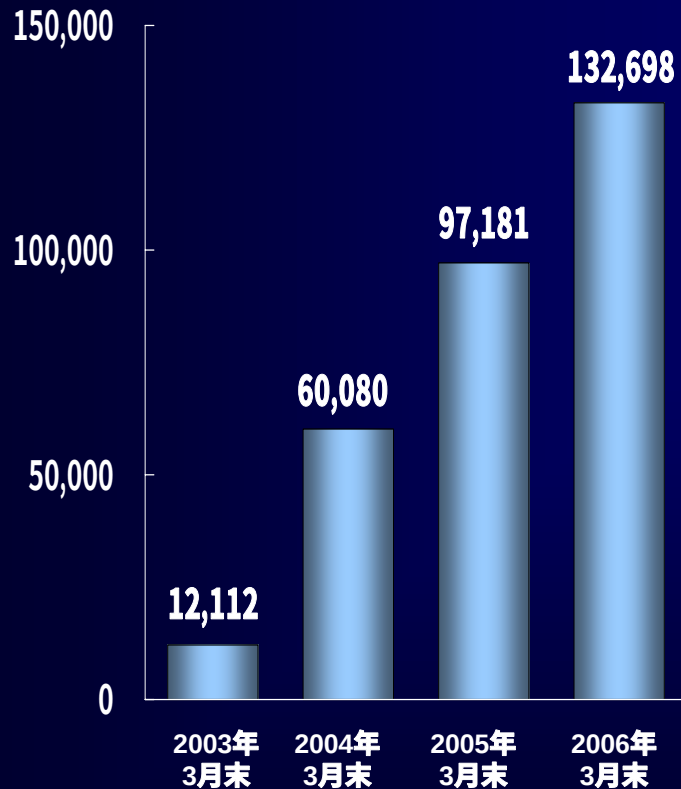


株主構成の推移

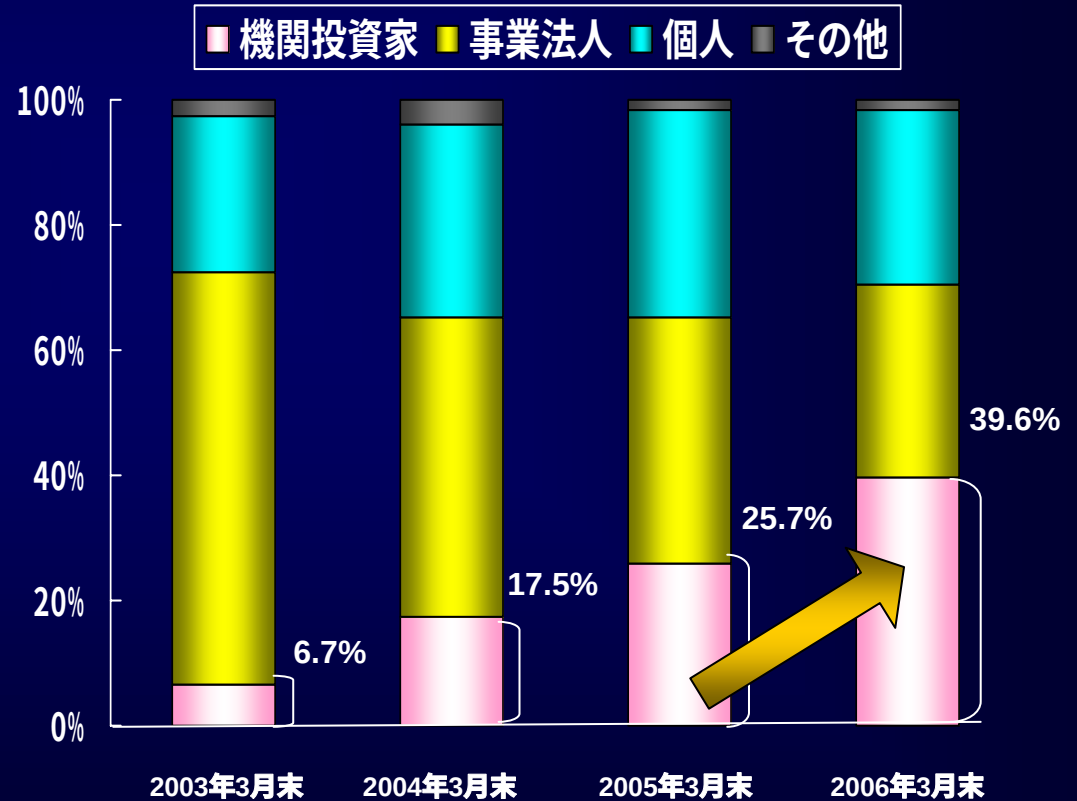
**機関投資家比率は、直近1年で25.7%から39.6%へ上昇
うち外国人の比率は、9.86%から19.46%へ大きく増加**

(単位:名)

株主数の推移



株主構成比率の推移

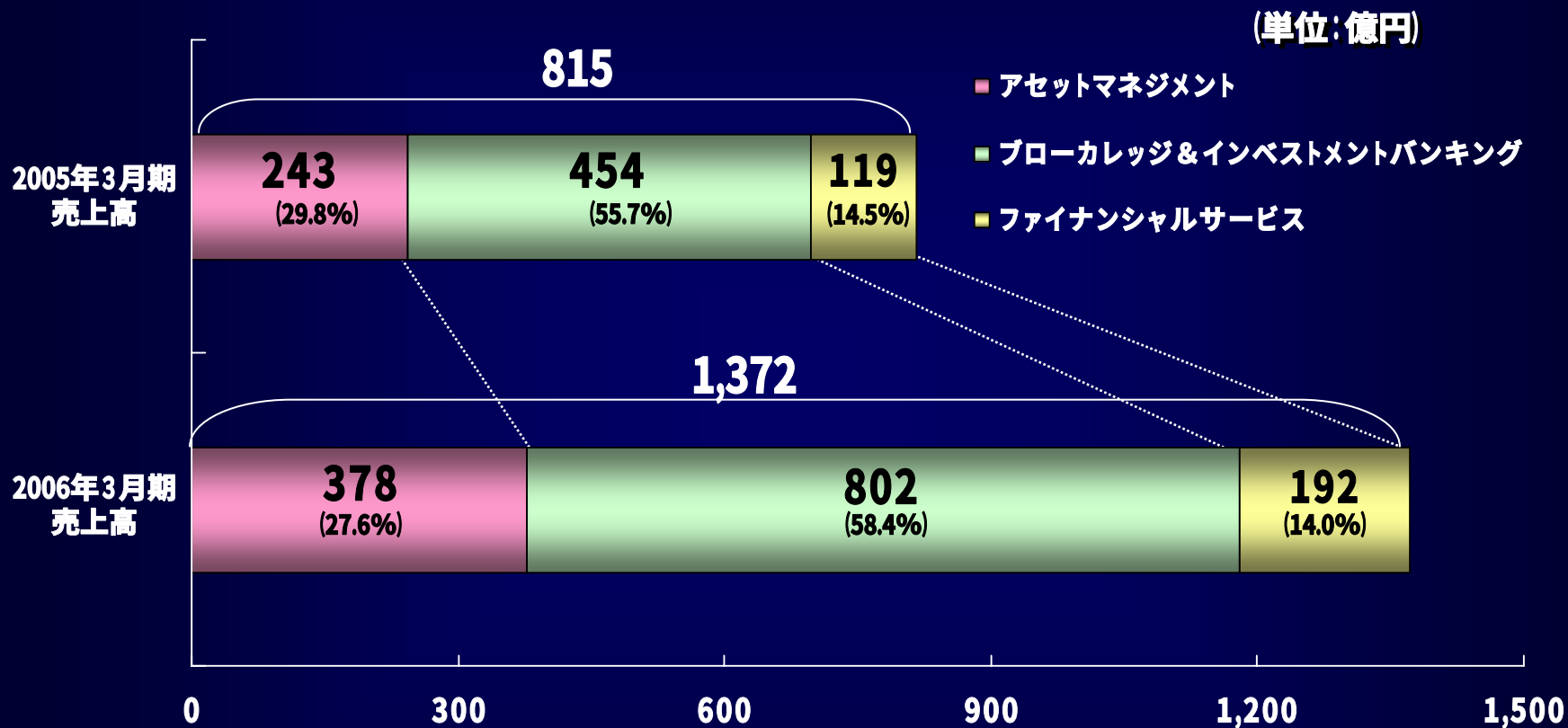


(2006年3月末 ソフトバンク・エーエム議決権比率 26.6%)

2. 主要ビジネスラインの事業概況

①セグメント別構成

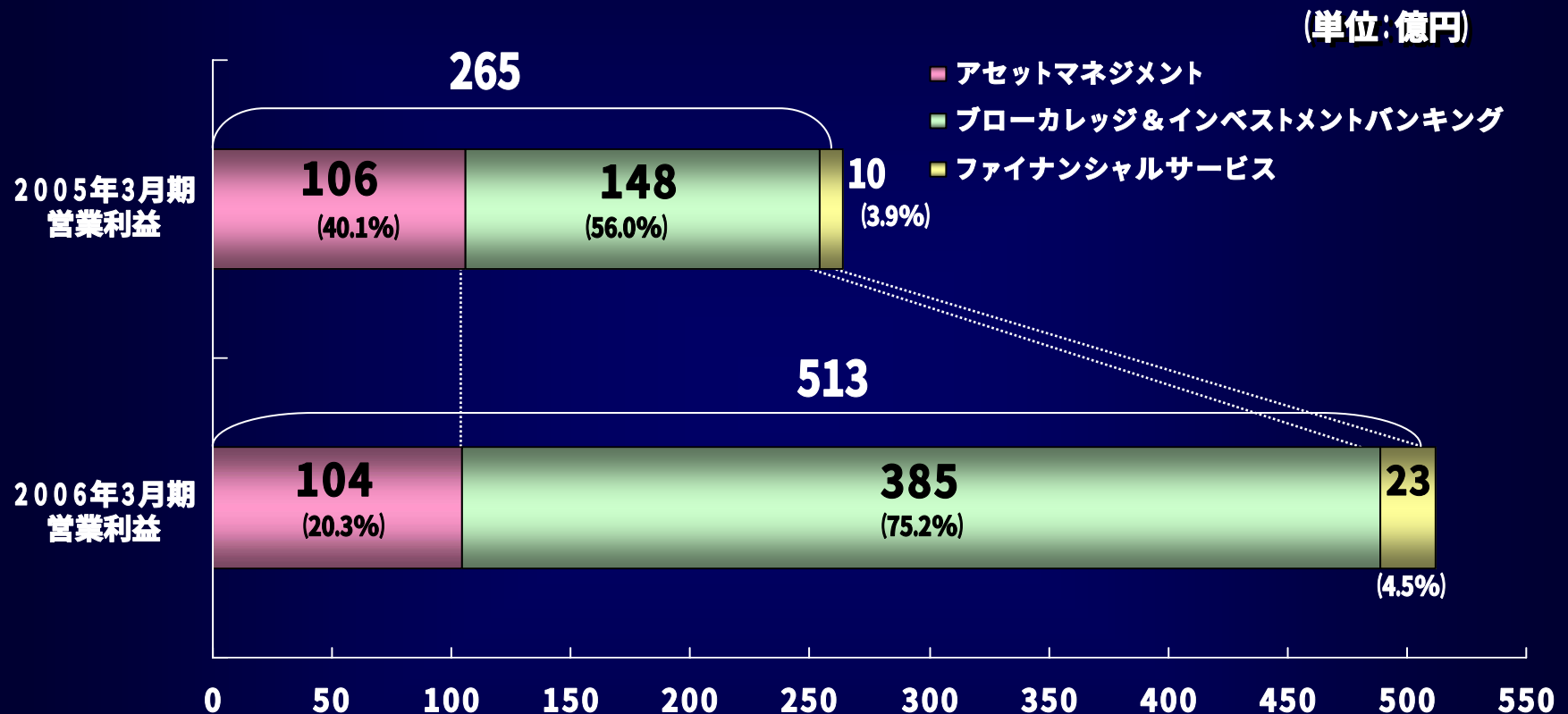
セグメント別売上高の構成比較



※ 2006年3月期は、会計上の表示区分の変更に伴い、アセットマネジメントセグメント売上高32億円を減じております。

※ SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月から合併前の2006年2月までの業績を加算しております。

セグメント別営業利益の構成比較



※ 2006年3月期は、会計上の表示区分の変更に伴い、アセットマネジメントセグメント営業利益28億円を減じております。

※ SBIパートナーズの連結業績につきましては、2005年9月から合併前の2006年2月までの業績を加算しております。

※ 本項における営業利益につきましては、連結消去および全社費用控除前の数字であり、その合計値は連結決算業績における営業利益とは一致していません。

②アセットマネジメント事業

アセットマネジメント事業のハイライト

①拡大し続ける運用規模:

IT・バイオ関連、企業再生分野に加え、新たなコアセグメントである不動産事業分野においても積極的な新ファンド設定を行い、その他投資信託・投資顧問を含めた**グループ全体の運用資産規模は今期末で約5,600億円**。

②極めて好調な運用パフォーマンス:

過去に設定したファンド群は、償還期に向けて順調に分配金を積み上げ、運用期間中のファンドにおける**今期末までの分配実績の総額は818億円**。**今後一年間、主要ファンドで2,000億円以上の追加分配を実施する見通し**。

- ・ITファンドの時価純資産は、2006年3月末で**当初出資金比約1.8倍の2,775億円に達する**。2004年1月～2006年3月にITファンドからIPOした**22社は投資額の6.2倍に**。
- ・SBI・LBO・ファンド1号の時価純資産は、**2006年3月末で当初出資金比約1.9倍の95億円**。企業再生ファンド1号は同約**1.5倍の154億円**。メザニンファンドは知名度向上により、**第4四半期は融資案件が前年同期比66%増加**。
- ・未公開株組入ファンドⅠ・Ⅱは、ともに**当初基準価格の2倍程度の水準で償還**。**未公開株組入ファンドⅠは Lipper Fund Awards Japan 2006 最優秀ファンド賞受賞**。

現在のSBIグループファンド運用規模

(2006年3月末現在)

総額 5,590億円

**IT・バイオ ファンド
合計 3,734億円**

ITファンド	2,459億円
BBファンド	513億円
バイオファンド	99億円
その他	663億円

**バイアウト・メザニン ファンド
合計 275億円**

LBOファンド	61億円
企業再生ファンド	96億円
メザニンファンド	110億円
その他	8億円

**投資信託・投資顧問等
合計 1,230億円**

投資信託	966億円
投資顧問	222億円
投資法人	42億円

**不動産 ファンド
合計 351億円**

稼動物件	260億円
開発案件	91億円

※不動産ファンドは投資総額、投資信託・投資顧問等は2005年12月末の時価純資産、その他のファンドは2005年12月時点の各ファンドの直近決算に基づく時価純資産で記載しております。

分配実績を積み上げる運営ファンド群

2006年3月末までに6ファンドで総額818億円を分配

	ファンド 総額	累計 分配	〔うちSBIH 受領額〕 (単位:億円)
ITファンド	1,505	575	(196)
コンテンツファンド	94	94	(50)
SBI・LBO・ファンド1号	50	47	(21)
企業再生ファンド一号	104	91	(54)
VR企業再生ファンド	10	9	(一)
SBIメザニンファンド2号	83	2	(1)
合計	1,846	818	(322)

主要ファンドのパフォーマンス見通し

(単位: 億円、%)

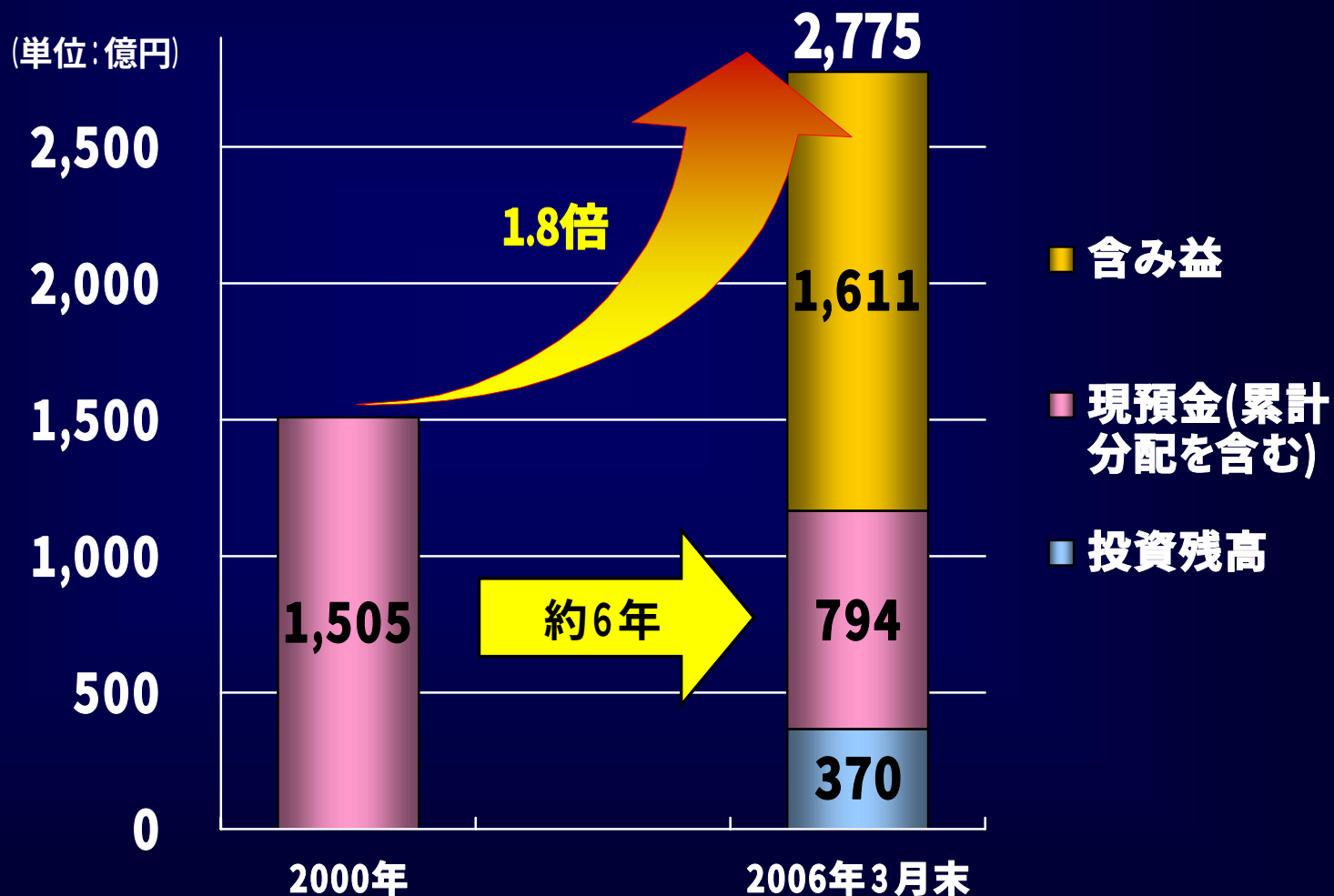
	ファンド 総額	総分配額 (見込を含む)	ネット IRR※
ITファンド	1,505	2,508	8.3
SBI・LBO・ファンド1号	50	108	18.1
企業再生ファンド一号	104	197	25.4
VR企業再生ファンド	10	19	27.4
合計	1,669	2,832	-

※ネットIRRは、管理報酬・成功報酬等を控除して計算した投資家利回りです。

i) ソフトバンク・インベストメント (株)

ITファンドの状況

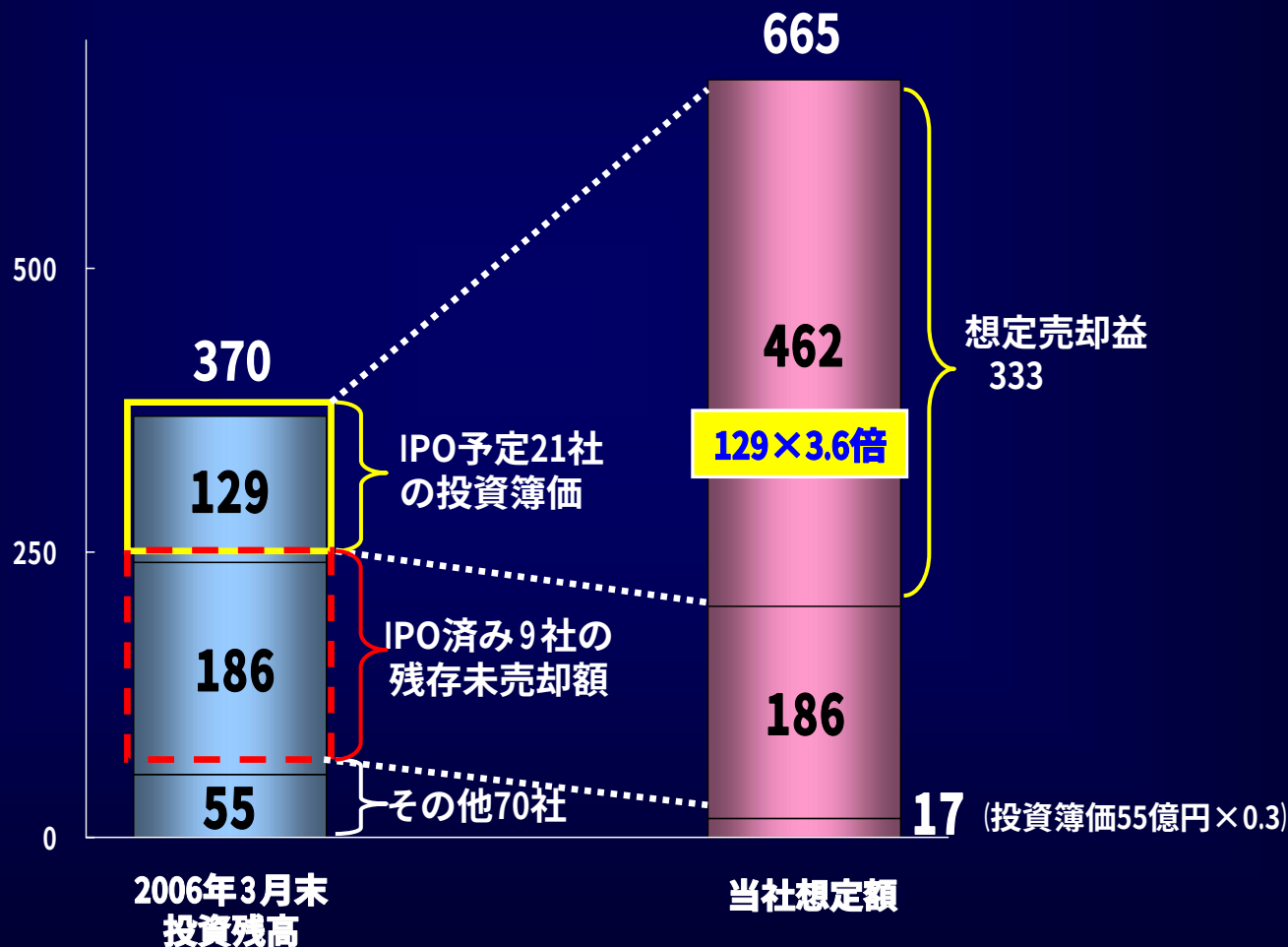
2006年3月末時点での時価純資産は2,775億円と好調に推移



IPO予定先のパフォーマンス (ITファンド)

更なる含み益・実現益の積み上げが想定される

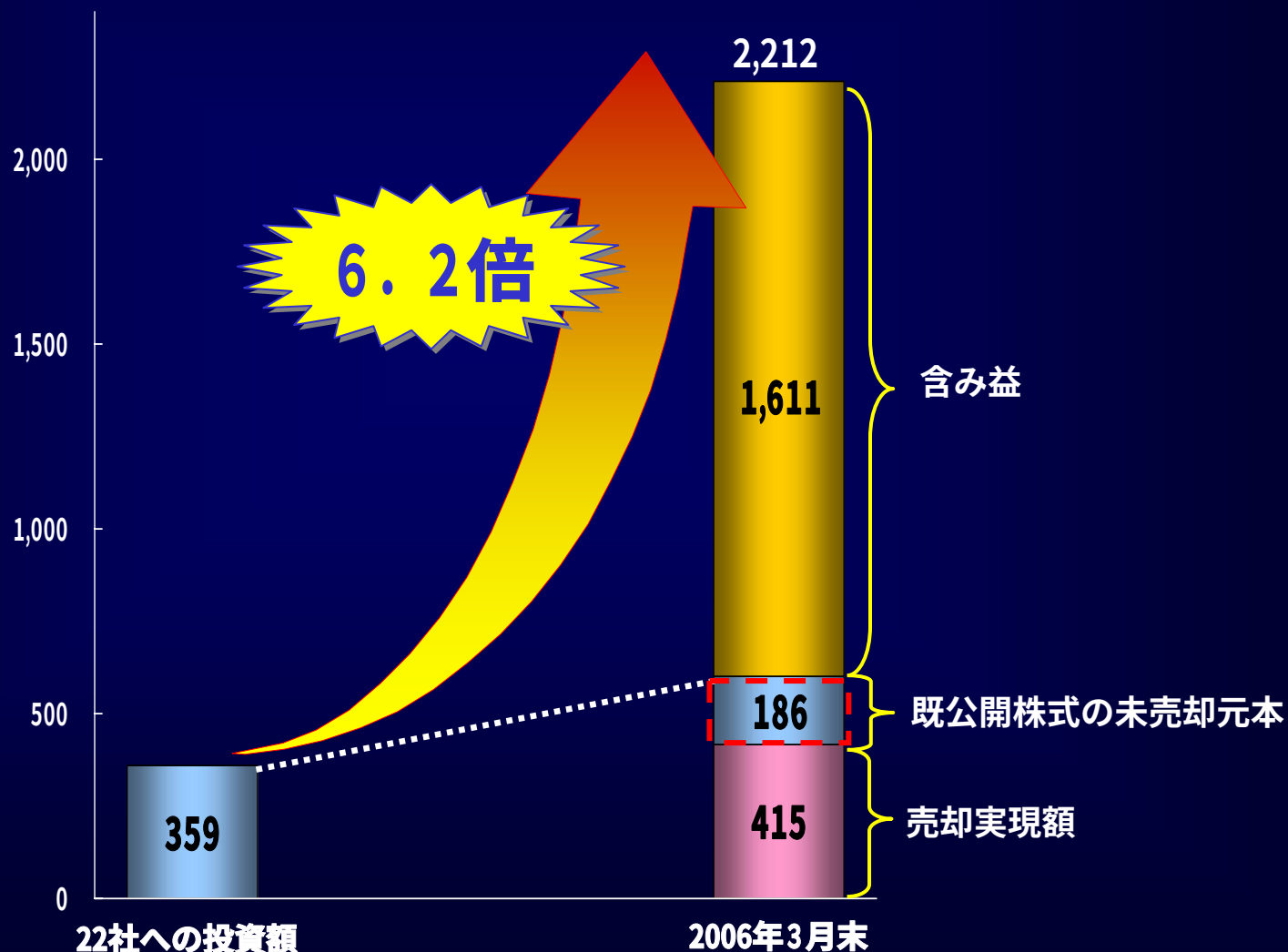
(単位: 億円)



IPO投資先のパフォーマンス (ITファンド実績)

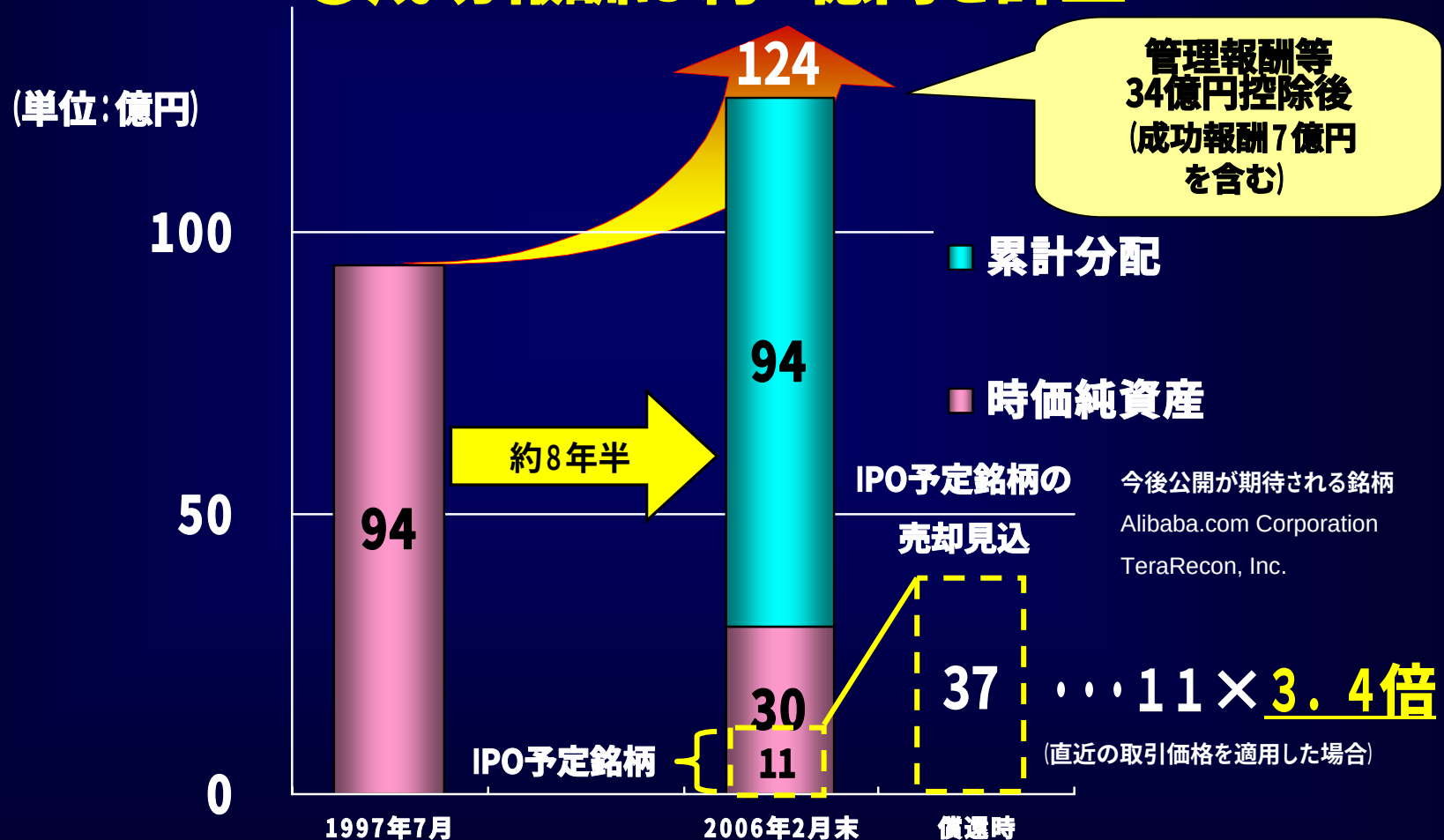
**2004年1月～2006年3月にITファンドから
IPOした22社は投資額の6.2倍に**

(単位: 億円)



既に元本を償還したコンテンツファンド

収穫期に入り、①元本に相当する94億円の分配を決定
②成功報酬は約7億円を計上



新規公開又はM & AによるExit社数 (直接投資分及び全運営ファンド合算)

2006年 3月31日現在

	既公開		公開予定
	～2004年12月	2005年1月～12月	2006年1月～12月
既公開および 公開予定社数	77社 (内、海外38社)	12社 (内、M&A1社)	20社*

2006年4月6日に(株)ゴルフ・ドウが名証セントレックスに上場しております。

投資先企業名	公開 時期	公募価格(A)	初値(B)	上昇率(%) (B/A)	2006/4/18 終値(C)	上昇率(%) (C/A)	公募価格対 簿価比(倍)	初値対 簿価比(倍)
(株)ゴルフ・ドウ	4月	170,000	407,000	239.4	351,000	206.5	0.5	1.1

5月31日にSBIフューチャーズ(株)が大証ヘラクレスに上場予定。

別途、上場申請済み2社。

* IPO予定社数には、毎週開催しております「案件会議」での検討に基づき、投資先5段階評価において最上位に区分されたものが含まれておりますが、これら投資先の評価およびIPO予定の見通しは当社独自判断に基づいたものであり、今後のIPOを保証するものではありません。

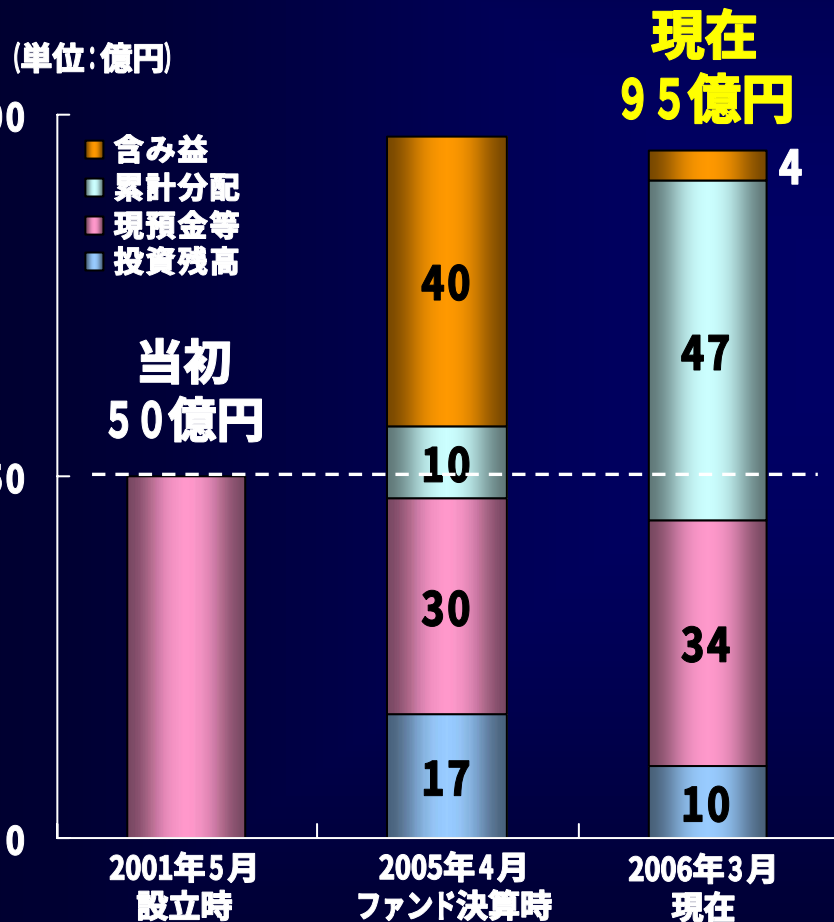
・IPO済みおよびM & Aの社数はすでに売却済みのものを含みます。

ii) SBIキャピタル(株)

LBOファンド・企業再生ファンドの状況

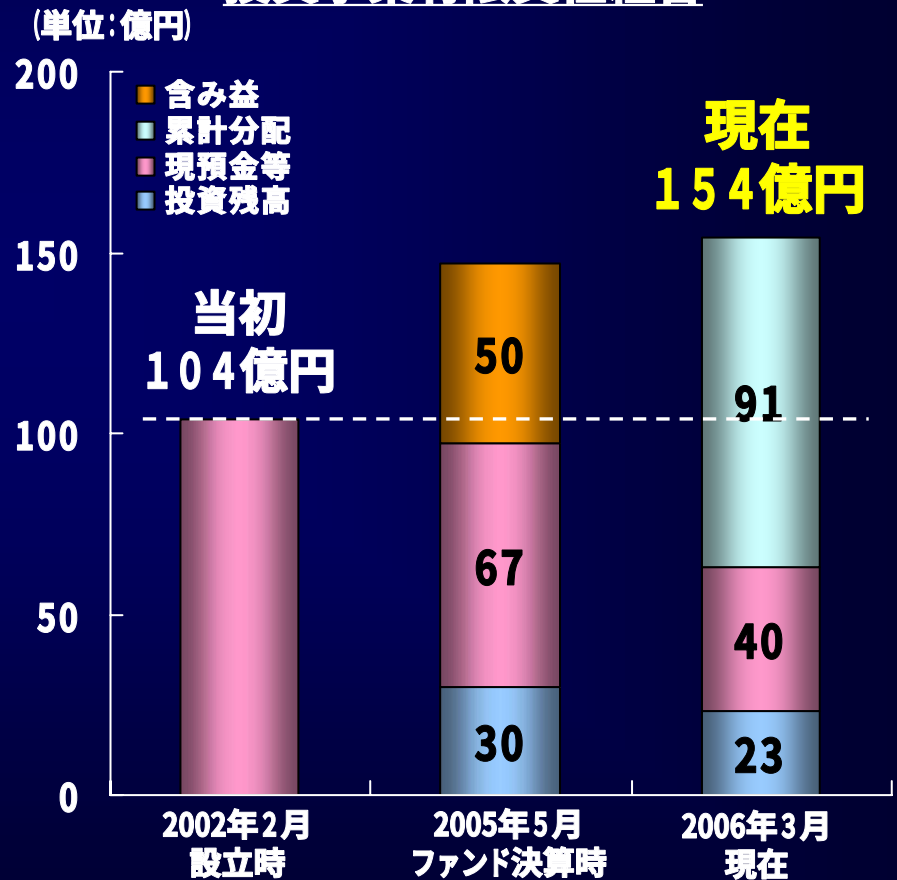
元本償還をほぼ完了

SBI・LBO・ファンド1号



企業再生ファンド一号

投資事業有限責任組合

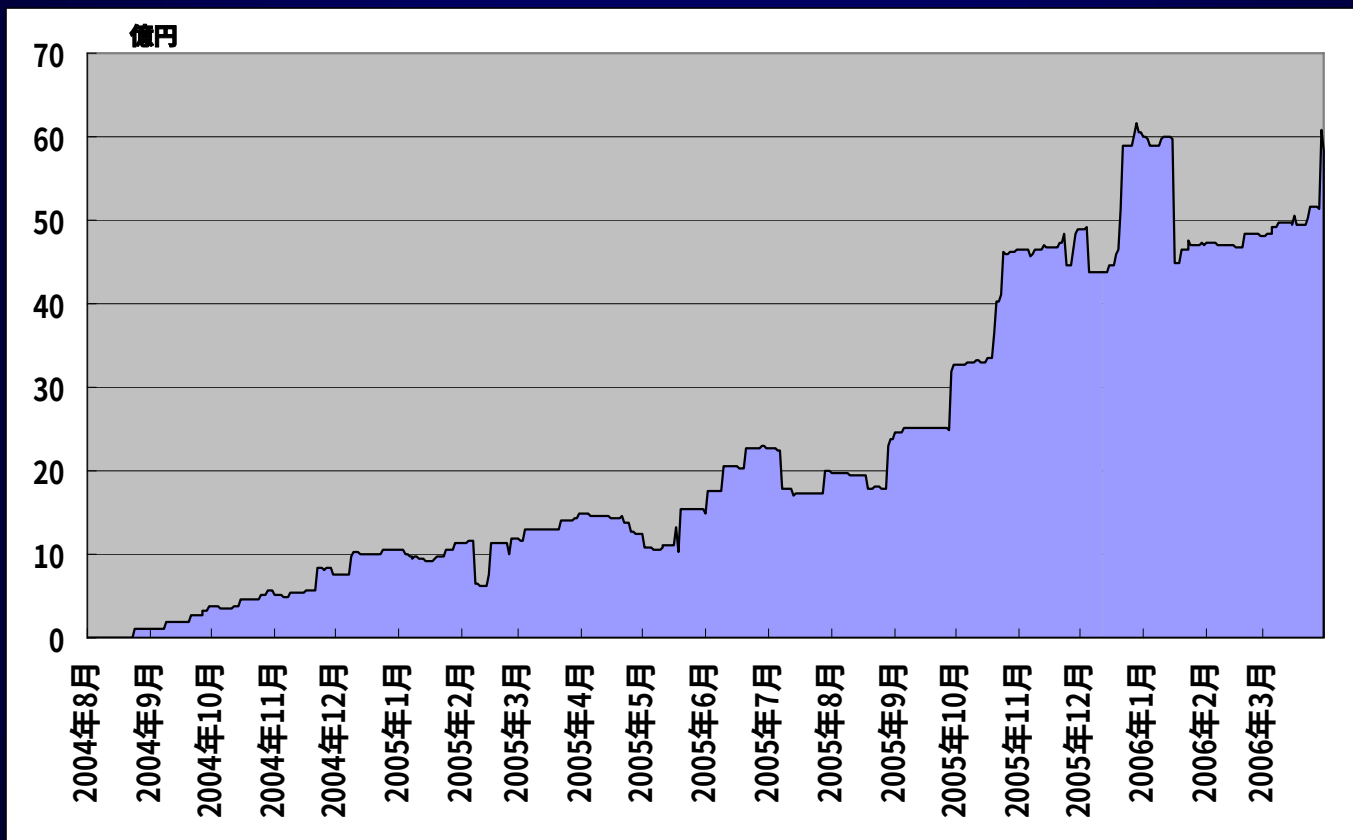


SBIメザニンファンドの状況

3月末時点のメザニンファンド投資残高は58億円。2006年3月期第4四半期は知名度の向上により、前年同期比66%の案件増加。

新銀行東京と第3号ファンドとなる「首都圏企業再生ファンド」(出資金額 27億円)を組成し、6月から本格運用を開始予定。メザニン部門の運用総額は、目標であった100億円を大幅に上回り、総額110億円を突破。

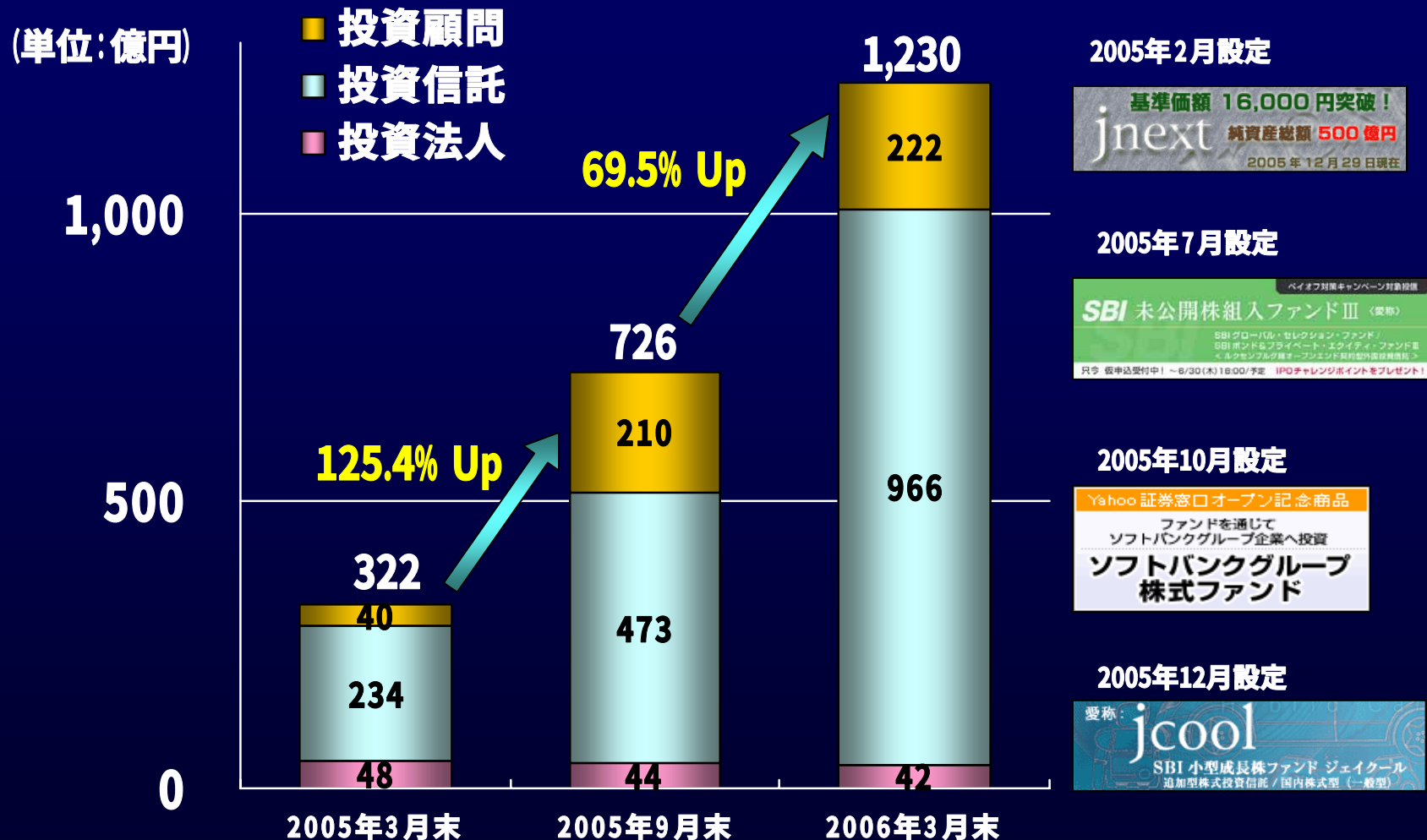
SBIメザニンファンド投資残高



iii) SBIアセットマネジメント (株)

運用資産の積み上げ ～SBIアセットマネジメント～

続々と新商品を提供し、運用資産を拡大



未公開株組入ファンドⅠ・Ⅱは好調な パフォーマンスにて償還

Lipper Fund Awards Japan 2006
最優秀ファンド賞受賞

未公開株組入ファンドⅠ (償還済) (最終償還価格は5月頃確定)

運用開始	2000年7月
償還日	2006年3月3日
2006年3月2日現在 基準価格	<u>21,208円</u>

未公開株組入ファンドⅡ (償還済)

運用開始	2001年6月
償還日	2005年10月12日
最終償還価格	<u>19,660円</u>

③証券関連事業

(2) 証券関連事業のハイライト

I イー・トレード証券は、連結営業収益602億円(前期比122%増)、連結経常利益300億円(前期比165%増)となり過去最高を更新
第4四半期の連結経常利益率は53.7%となる(同単体では56.0%)

- ① 2006年3月期の年間獲得口座数は575,035口座、3月末口座数は116万口座を突破！ 3月末預り資産は前期比95.8%増加し4兆5,800億円に
- ② 圧倒的な顧客基盤を背景に、2006年3月期通期の個人株式委託代金シェアは続伸し23.1%に 第4四半期は24.9%と更に躍進 機関投資家も含む全株式委託売買代金シェアでも、第4四半期に初めてシェア10%超となる
- ③ 新規公開株式は通期で94件を引き受け、過去最高を更新
- ④ 今期1株あたり利益配当金は、前期2,300円(記念配当を含む)から4,800円(分割考慮前)へと2倍以上の実質大幅増配を予定 (2006年2月1日株式分割考慮後1,600円)

II SBI証券は営業収益160億円(前期比50%増)、経常利益81億円(前期比181%増)となり大幅な増収増益となった

III SBIフューチャーズが4月21日大証ヘラクレス市場より上場承認済み
5月31日上場予定

イー・トレード証券 2006年3月期連結業績

(単位:百万円、%)

	2005年3月期 (2004年4月～2005年3月)	2006年3月期 (2005年4月～2006年3月)	前期比 増減率
営業収益	27,174	60,213	+121.6
純営業収益	25,180	56,317	+123.7
営業利益	11,112	30,011	+170.1
経常利益	11,343	30,077	+165.2
当期純利益	6,178	16,970	+174.7

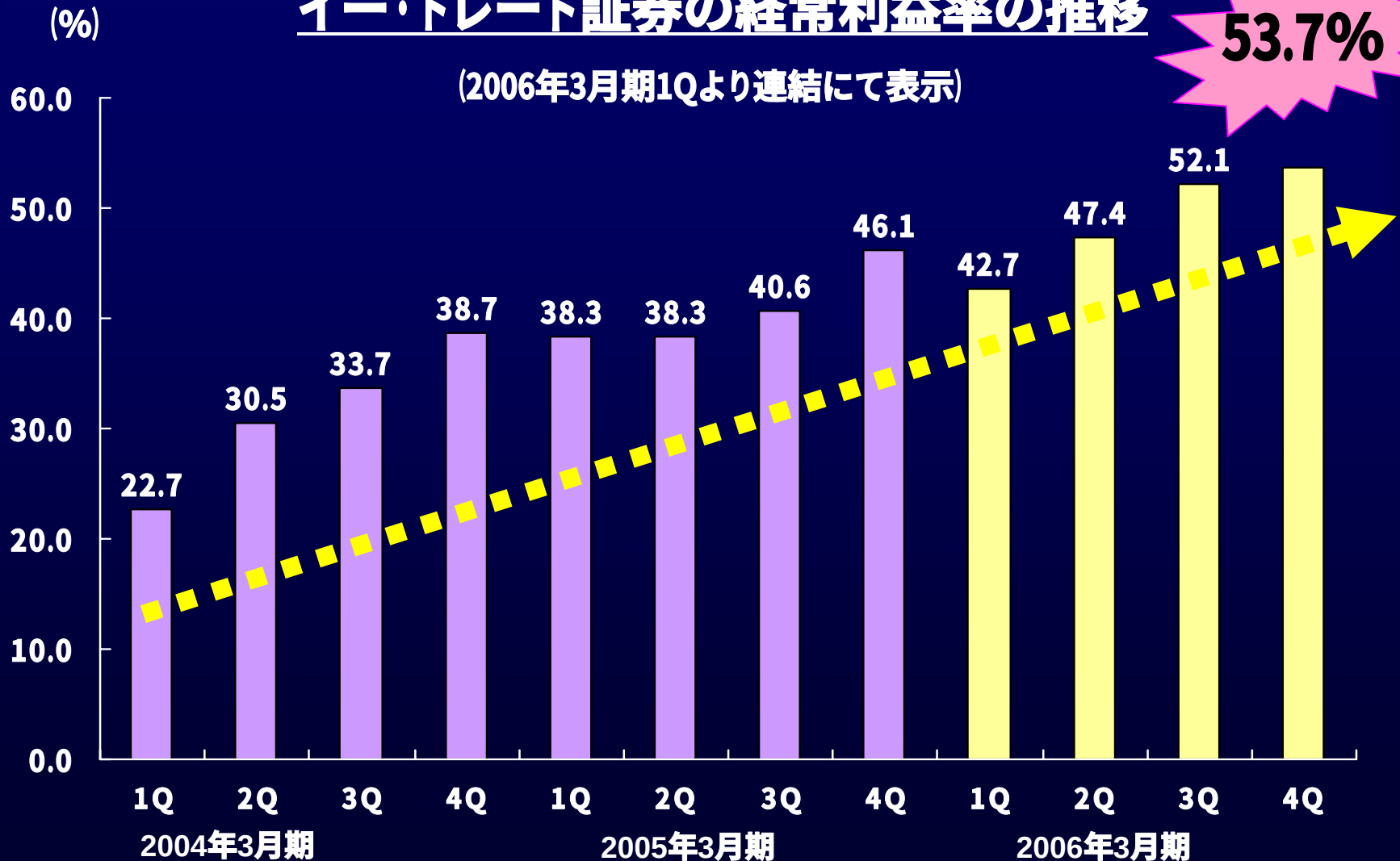
収穫逡増のビジネスモデルの実現 - 四半期毎の経常利益率の推移 -

(単体では56.0%)

イー・トレード証券の経常利益率の推移

(2006年3月期1Qより連結にて表示)

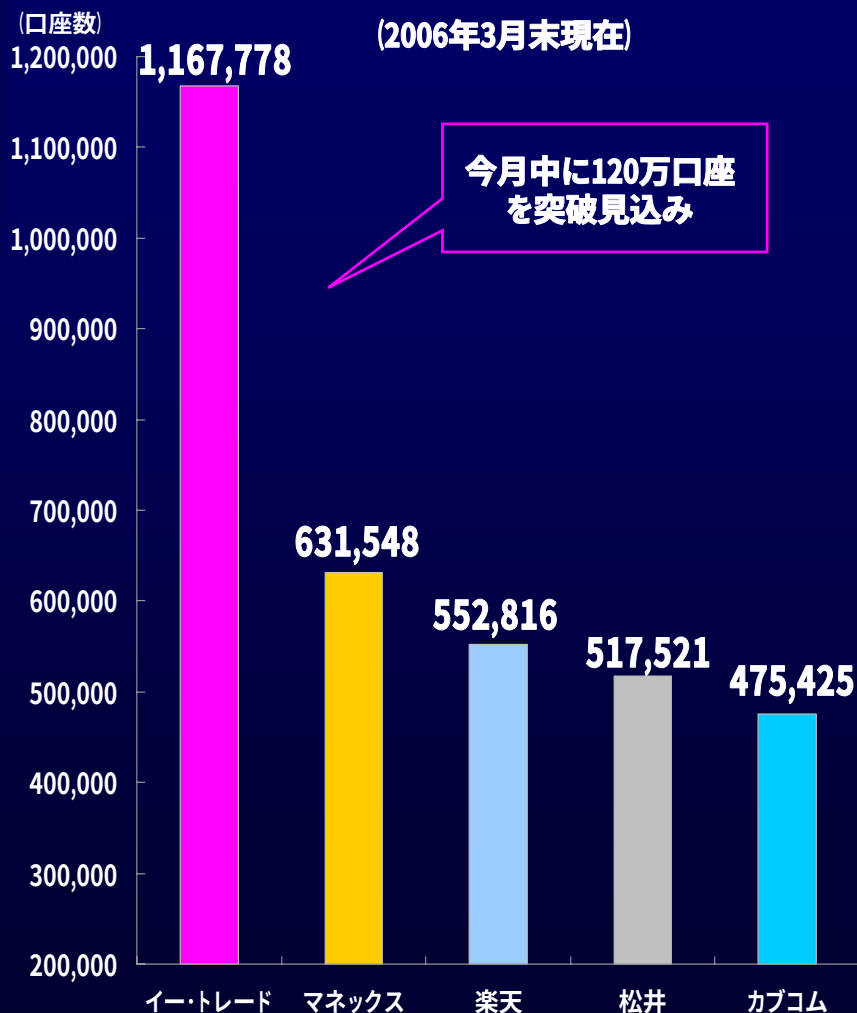
53.7%



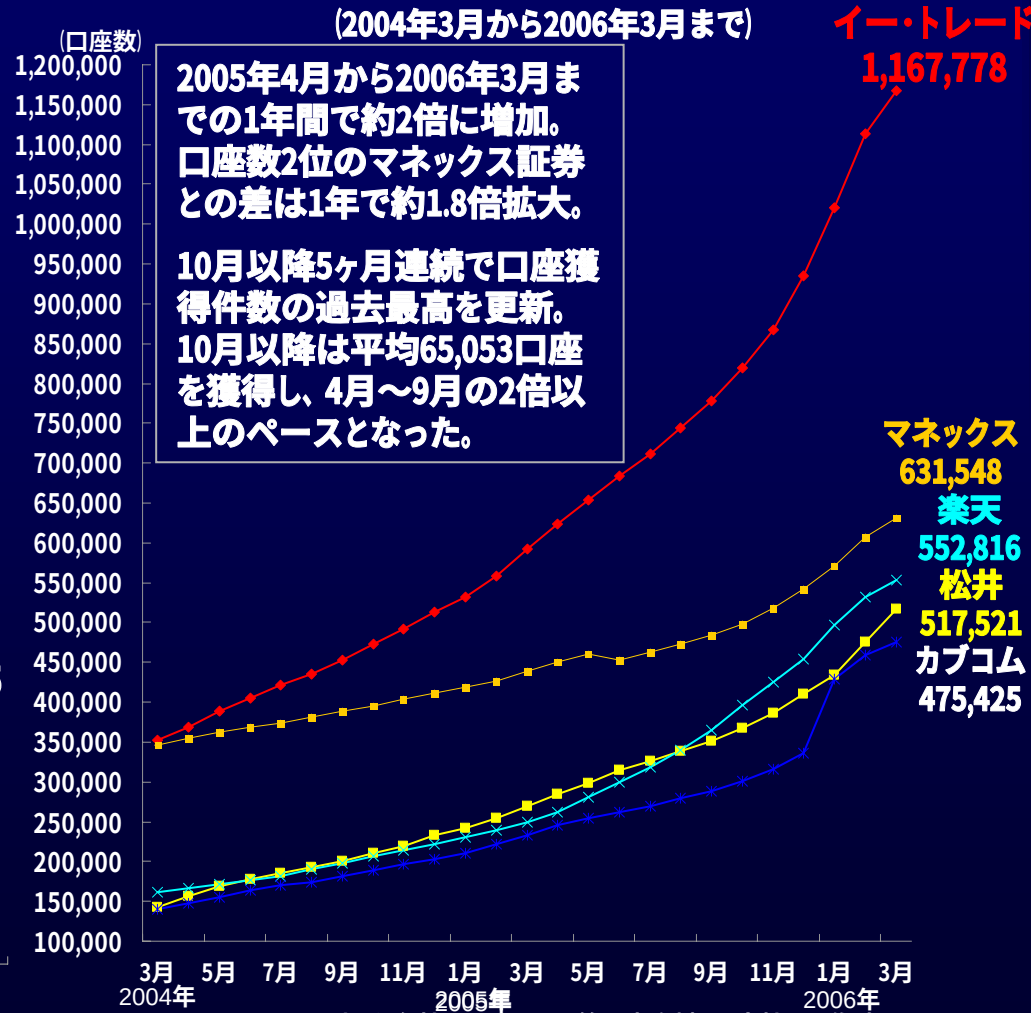
※ 経常利益 ÷ 営業収益にて算出

主要オンライン証券の口座数比較

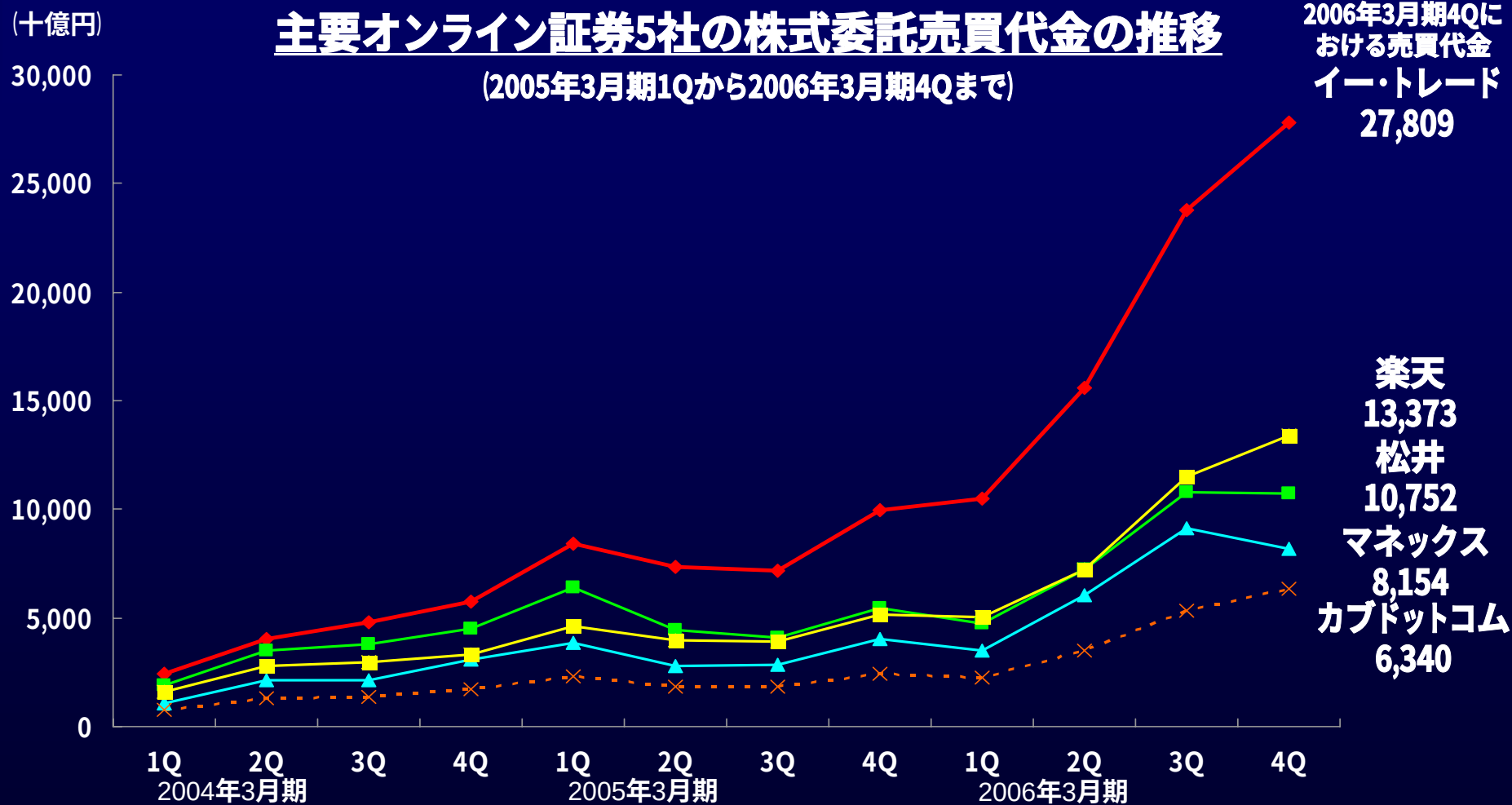
主要オンライン証券5社の口座数



主要オンライン証券5社の口座数推移



主要オンライン証券の株式委託売買代金推移



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計

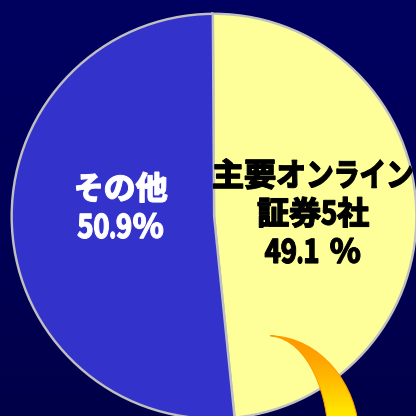
※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。
カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

主要オンライン証券の個人株式委託売買代金シェア

過去3年間の同期間比較 (通期:2005年4月～2006年3月)

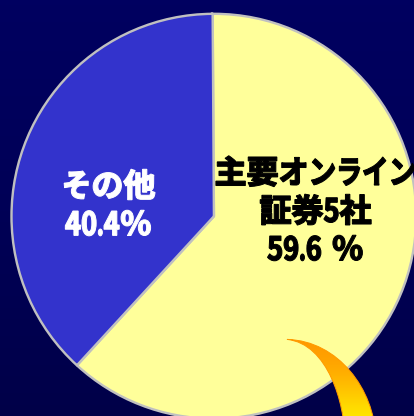
第4Qは
24.9%

2004年3月期
(2003年4月～2004年3月)



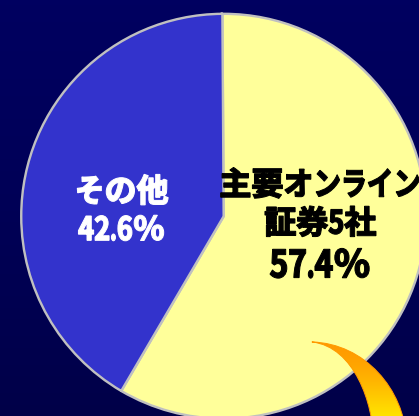
イー・トレード	15.2%
松井証券	12.2
DLJ(楽天証券)	9.5
マネックス	7.5
カブドットコム	4.6

2005年3月期
(2004年4月～2005年3月)



イー・トレード	21.1%
松井証券	13.1
楽天証券	11.3
マネックス	8.7
カブドットコム	5.4

2006年3月期
(2005年4月～2006年3月)



イー・トレード	23.1%
楽天証券	11.1
松井証券	10.0
マネックス	8.0
カブドットコム	5.2

出所: 東証統計資料、JASDAQ統計資料、各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
 ※ 個人株式委託売買代金は3市場 (1・2部) とJASDAQを合算
 ※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。
 カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

3大証券会社との株式委託売買代金比較

各社の株式委託売買代金の推移

2006年3月期4Qにおける委託シェア
(イー・トレード、松井、大和SMBC、大和
以外については2006年3月期3Q)

4Qにシェア10%を突破！

2005年3月期4Qに野村證券を抜く

イー・トレード証券
28,371 (10.68%)

野村 20,489 (8.13%)

松井 10,752 (4.05%)

大和SMBC 9,440 (3.55%)

日興シティ 6,720 (2.67%)

大和 6,184 (2.33%)

日興コーディアル 3,326 (1.32%)

(10億円)

30,000

25,000

20,000

15,000

10,000

5,000

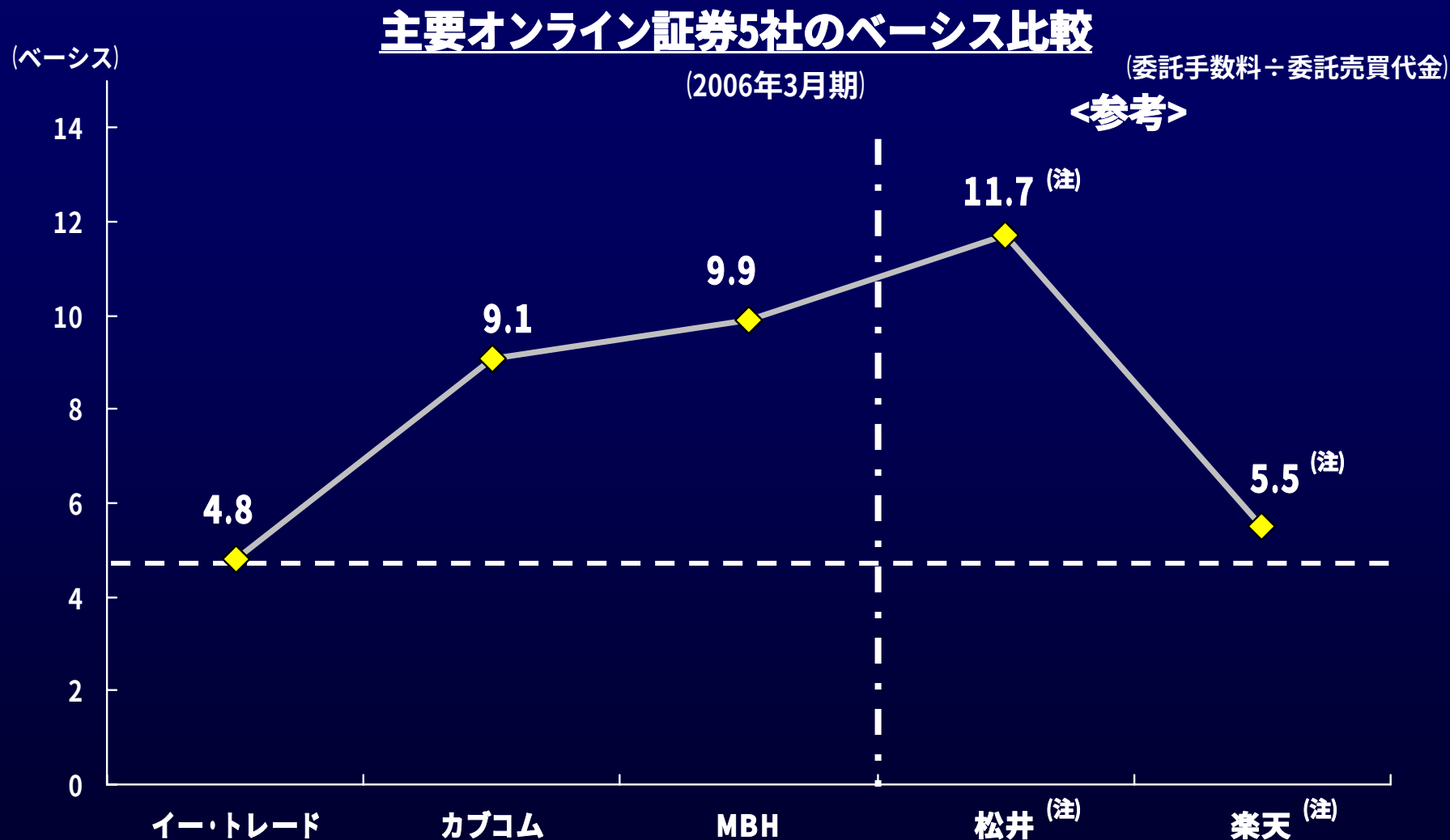
0

1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q
2002年3月期 2003年3月期 2004年3月期 2005年3月期 2006年3月期

出所：証券会社各社・東証の公表数値をもとに当社作成（イー・トレード証券分には海外投資家からの注文を含みます）

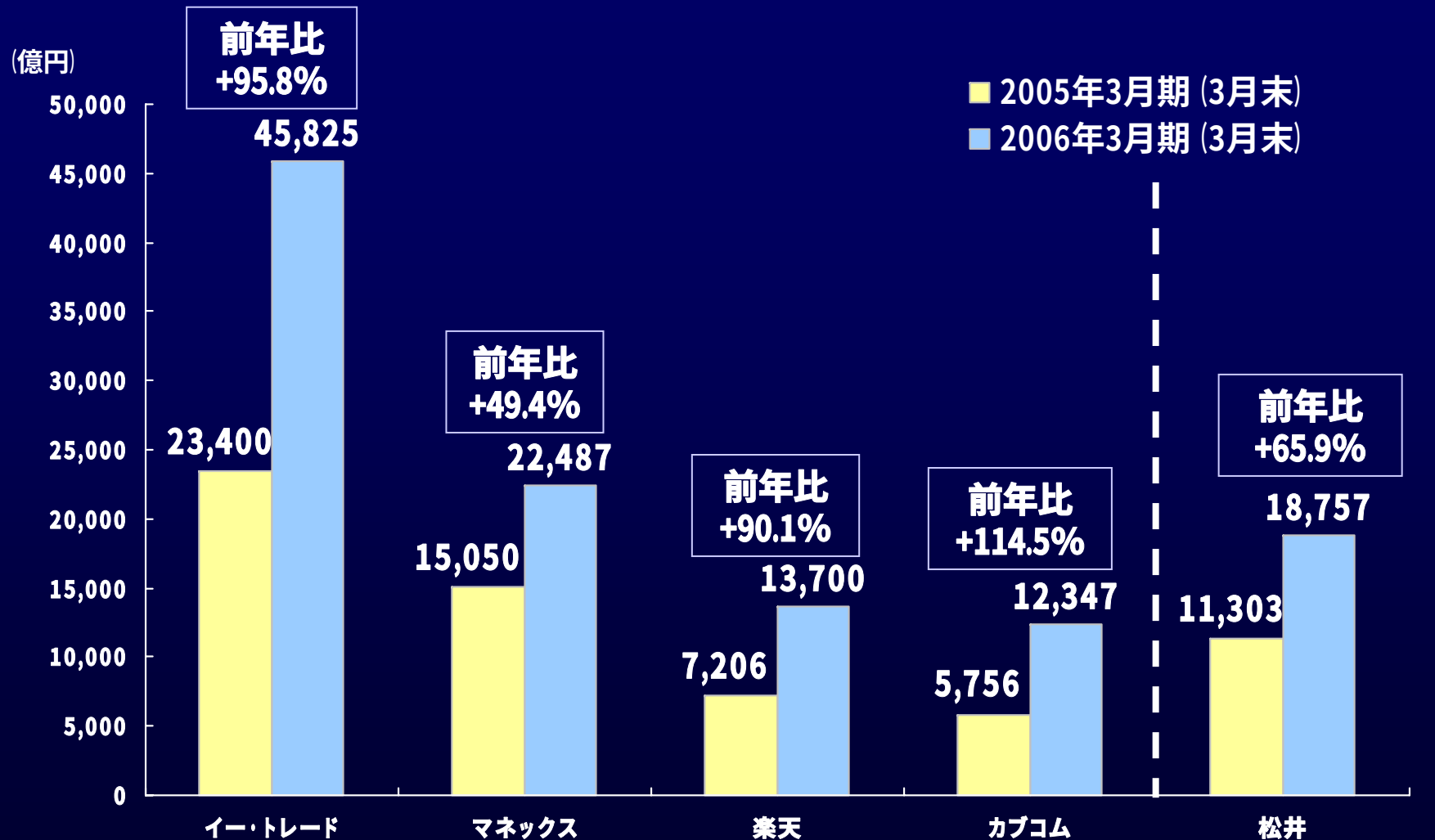
(単位：10億円、括弧内各社委託売買
代金を3市場委託で除したシェア)

主要オンライン証券のベースス比較



出所: 各社決算資料より当社作成
(注) 松井、楽天は2005年12月期

預り資産の推移



出所: 各社ホームページ等公表資料より当社集計

※ マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。

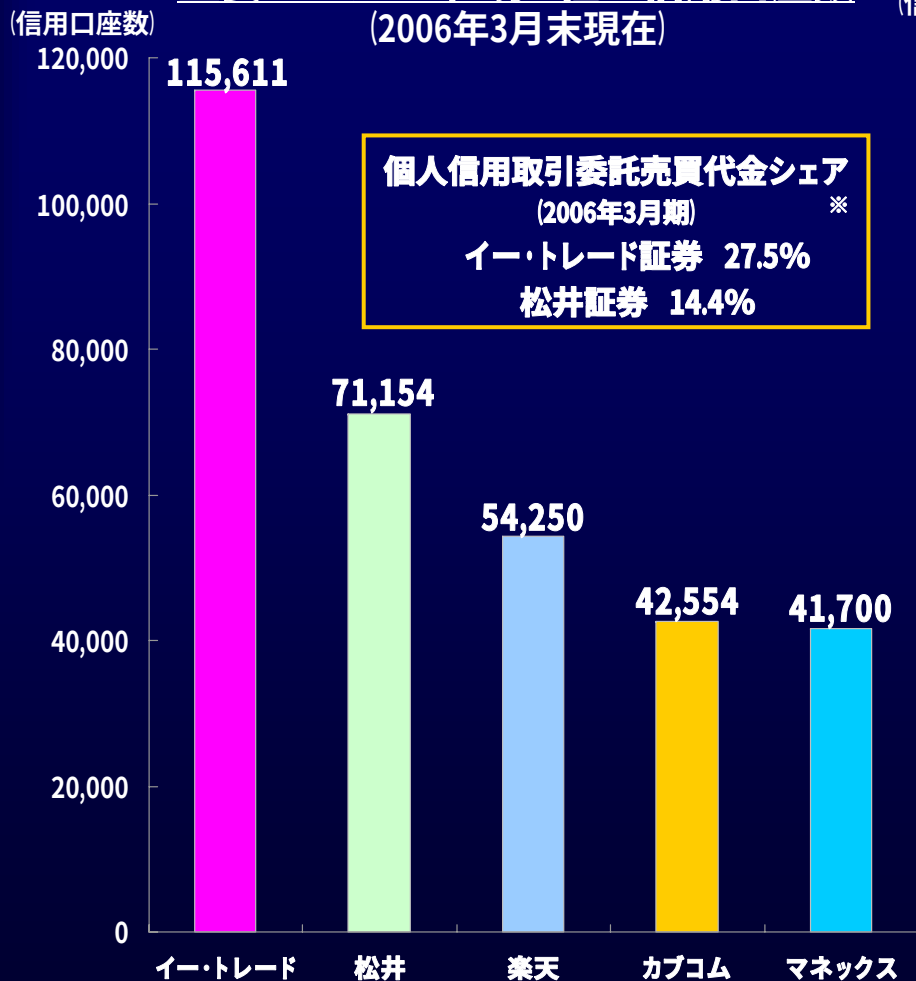
カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併

松井証券の2006年3月期は2月末を表示 (2005年3月期は3月末)

主要オンライン証券との信用口座数比較

主要オンライン証券5社の信用口座数

(2006年3月末現在)



松井証券との信用口座数比較

(2004年3月から2006年3月まで)



※ 個人信用取引委託売買代金は3市場 (1・2部) とJASDAQを合算

出所: 各社ホームページ等公表資料より当社にて集計
マネックス証券、日興ビーンズ証券はマネックスとして合算。
カブドットコム証券は2006年1月にMeネット証券と合併。

金融収益の拡大

(百万円)

15,000

■ 金融収益

■ 金融収支 (金融収益－金融費用)

10,000

5,803

3,809

13,230

9,334

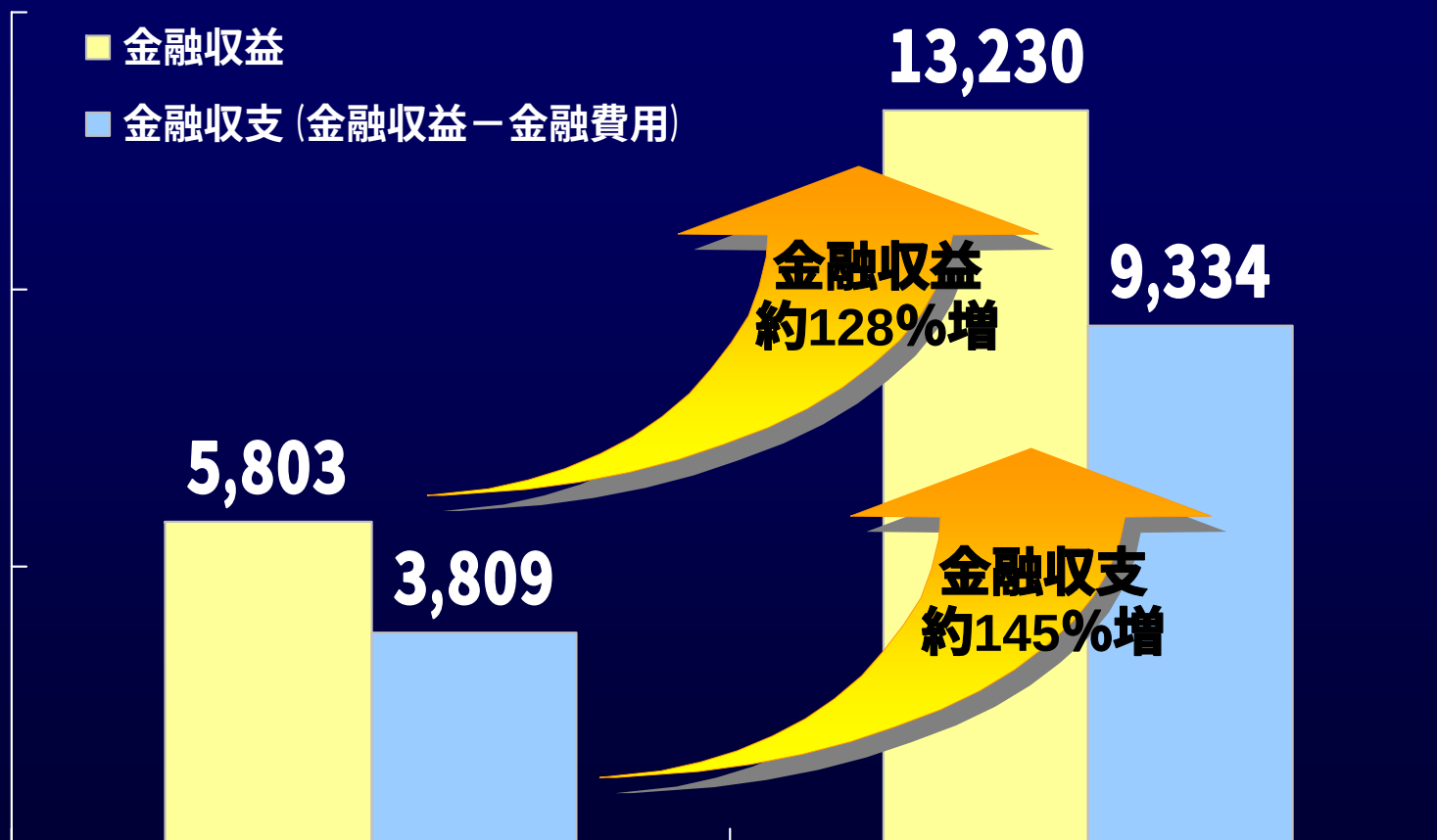
金融収益
約128%増

金融収支
約145%増

0

2005年3月期
(2004年4月～2005年3月)

2006年3月期
(2005年4月～2006年3月)



IPO引受実績

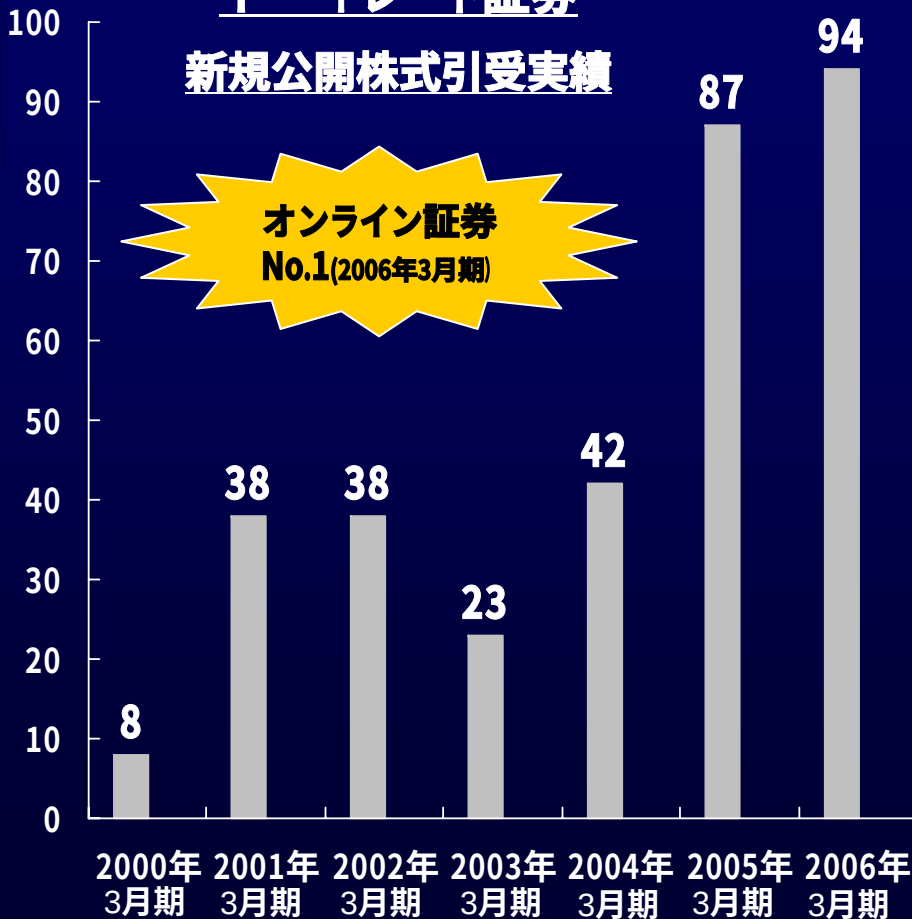
**IPO引受主幹事2社目となるエイチアイテクノロジー社が
5月29日ヘラクレス上場予定**

(引受社数)

イー・トレード証券

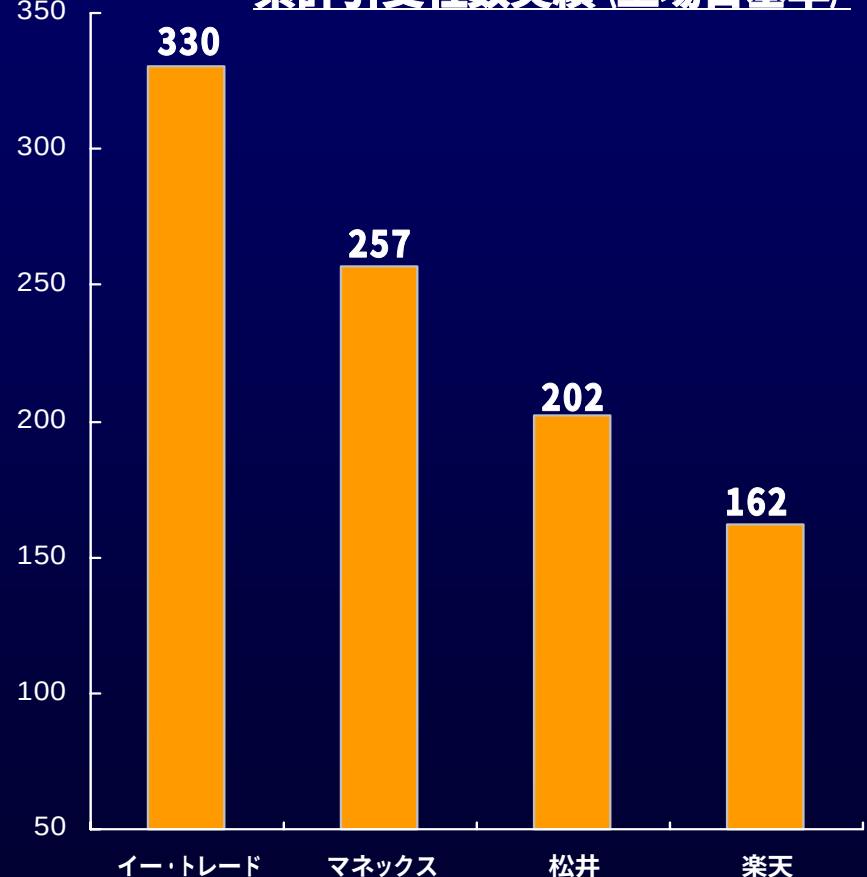
新規公開株式引受実績

**オンライン証券
No.1(2006年3月期)**



(引受社数)

累計引受社数実績 (上場日基準)



出所:各社公表資料等より当社にて集計。各社のオンライン取引創業から2006年3月末日(上場日ベース)まで。

※ 委託販売、不動産投信を除く

オンライン証券取引システムの更なる増強

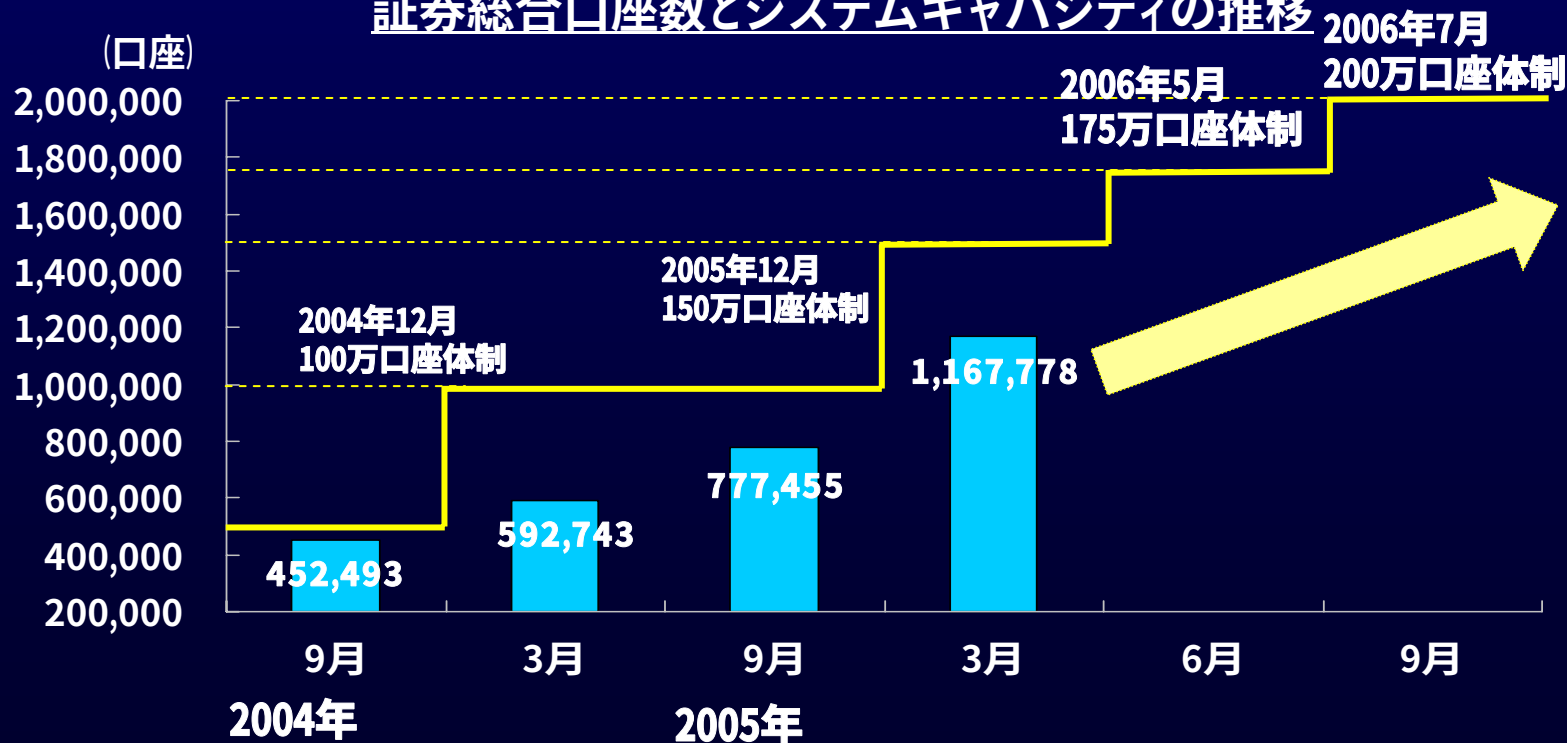
取引量の大幅な増加に伴い、更なるシステム増強を予定

2005年12月に、現行システムへの移行時(2003年7月)の3倍構成へ増強完了



更に2006年7月までに200万口座体制へ増強予定(移行時の4倍)
常にシステムに余裕を持つことで、ストレスのない取引環境を提供

証券総合口座数とシステムキャパシティの推移



E*Trade Korea Co.,Ltd. の概況

E*TRADE
K O R E A

**2006年3月期に累損を一掃し、
コスダック市場への公開準備に入る**

決算概況 (2006年3月期)

(百万円)

営業収益	5,202
営業利益	1,182
経常利益	1,189
当期利益	922

- ・国内オンライン売買最低手数料 (株式: 0.024%)
- ・オンライン投資相談 (画像、音声、チャット)・・・

資本金 : 560億韓国ウォン

出資比率 : 87%

従業員 : 101名

口座数 : 96,711口座

(2006年3月末現在)



SBI証券 通期単独業績 (12ヶ月)

(単位:百万円)

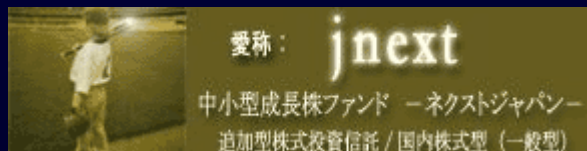
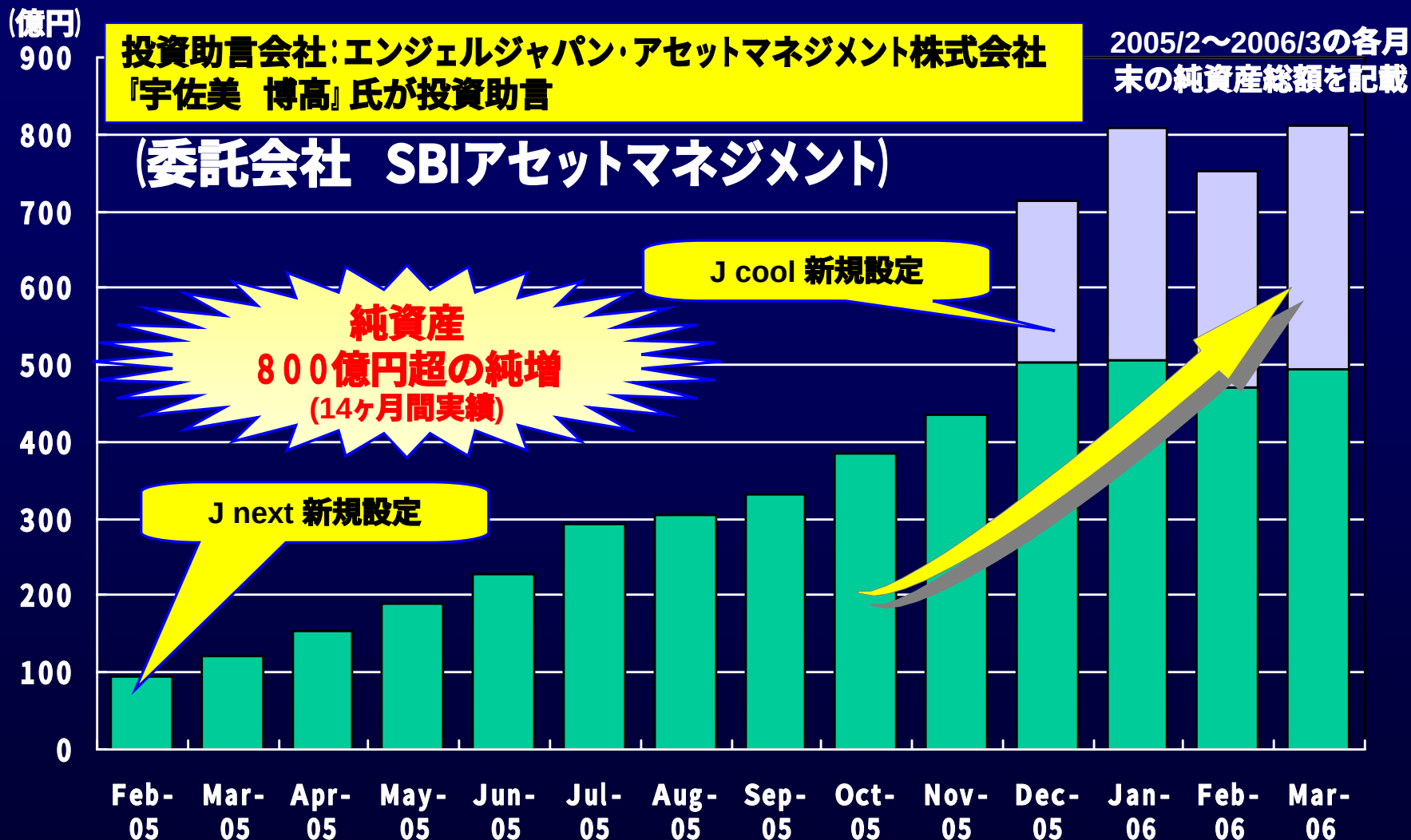
	2005年3月期 通期 (2004年4月～2005年3月)	2006年3月期 通期 (2005年4月～2006年3月)	前年比 増減率 (%)
営業収益	10,671	16,062	+50.5
営業利益	2,701	8,046	+197.8
経常利益	2,906	8,179	+181.4
当期純利益	3,777	6,482	+71.6

SBI証券 第4四半期単独業績 (3ヶ月)

(単位:百万円)

	2005年3月期 第4四半期単独 (2005年1月～3月)	2006年3月期 第4四半期単独 (2006年1月～3月)	前年同期比 増減率 (%)
営業収益	2,449	4,356	+77.8
営業利益	516	2,345	+354.4
経常利益	535	2,356	+339.7
当期純利益	1,134	1,503	+32.6

主要専用投信の純資産総額の推移 (J next + J cool)

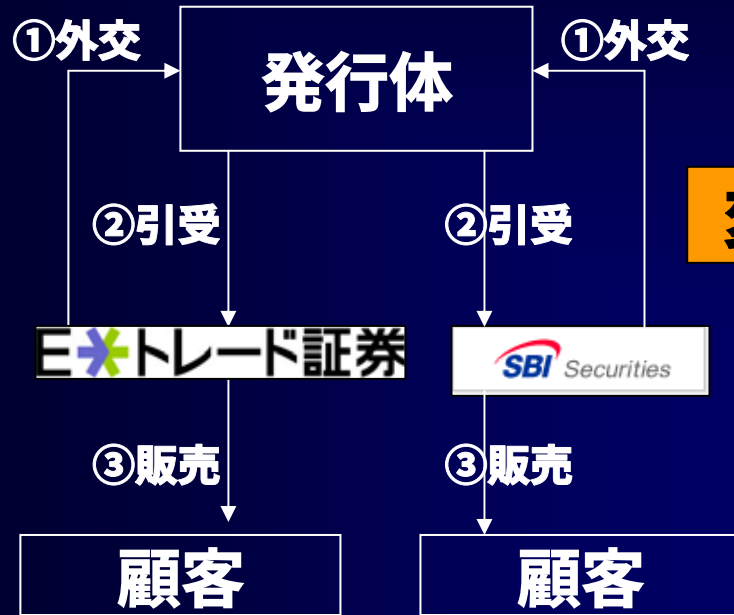


■ J next ■ J cool



イー・トレード証券との引受業務の統合：委託販売の開始

【変更前】



変更

【変更後（平成18年2月～）】



変更前

・イー・トレード証券およびSBI証券が独立して引受外交を実施し、各々がシェアを獲得

変更

変更後

・イー・トレード証券が幹事入りして獲得した引受玉の一定割合を、SBI証券が委託販売

平成18年2月より、本体制へ移行
2月～3月で、すでに15件の委託販売を実施

SBIフューチャーズの株式新規公開

2006年4月21日 大証ヘラクレス市場より上場承認

【スケジュール】

新規上場承認日：2006年4月21日

仮条件決定日：2006年5月10日

需要予測期間：2006年5月12日～18日

公開価格決定日：2006年5月19日

公開予定日：2006年5月31日

設立年月日：2000年10月13日

事業の内容：インターネット及びコールセンターを通じた商品取引受託業務

業種・コード番号：証券・商品先物取引業 8735



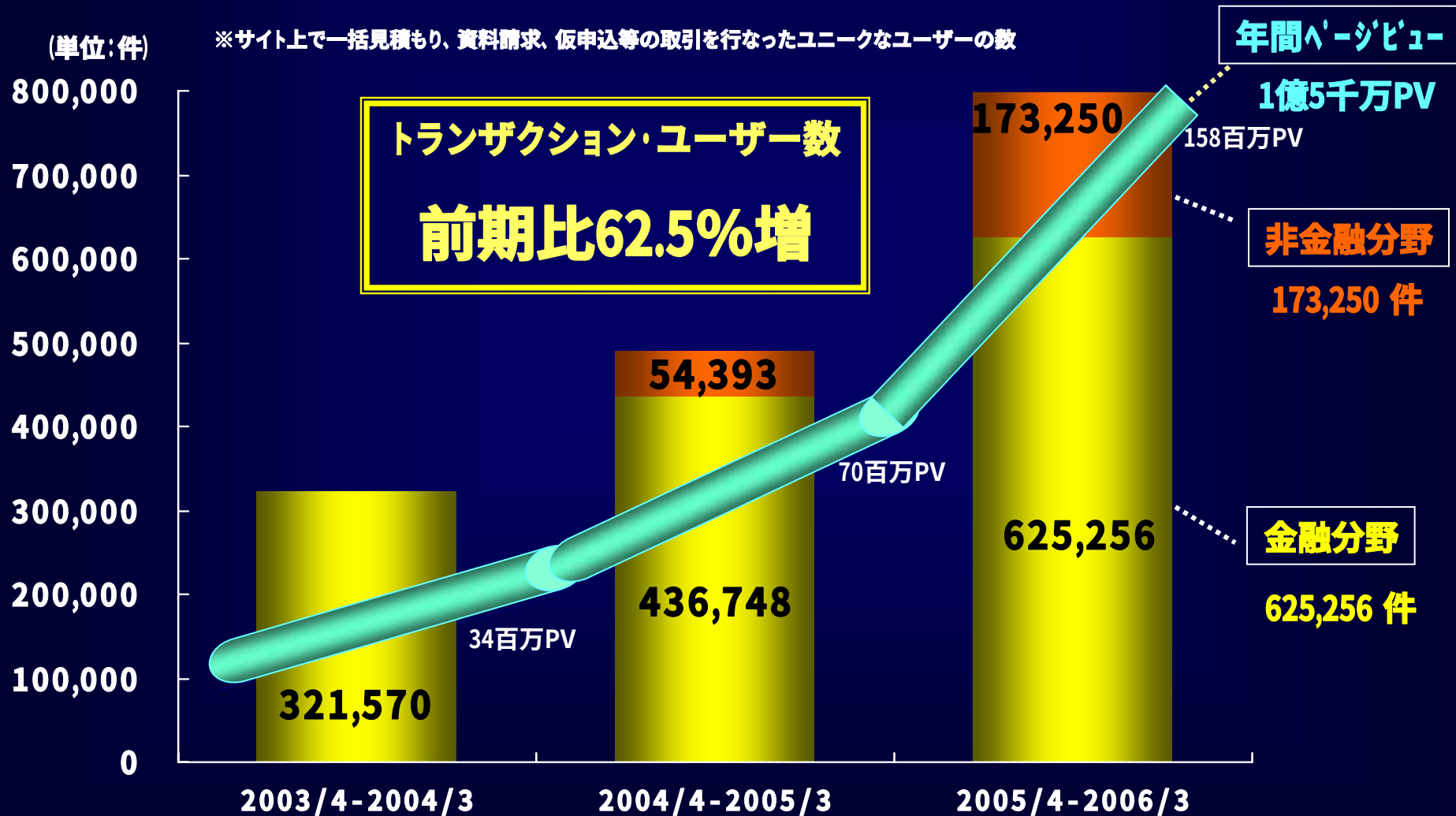
④ファイナンシャル・サービス事業

(3) ファイナンシャル・サービス事業のハイライト

- I イー・ローン、インズウェブを中心としたマーケットプレイス事業では見積みり件数が前期比62.5%増加 前期末から10サイト開設、年間1億5,000万ページビューへと成長
- II SBIモーゲージでは公庫証券化ローン [フラット35] の伸びが加速、3月末住宅ローン実行残高は2,000億円を突破！
- III モーニングスターの2006年1月-3月期は経常利益が前年同期比3.1倍と大幅に伸長
 - ① メディア価値の向上により、ウェブ広告売上が前年同期比4.8倍に
 - ② ゴメス・コンサルティングはサイト構築コンサルの売上が対前年同期比60%増と好調に推移
- IV SBIベリトランスにおいてはトランザクション件数が前期比47%増加 売上高、経常利益はともに過去最高を更新
- V SBIイコールクレジットの貸付残高は営業開始後16ヶ月で約90億円となる

成長するマーケットプレイス事業

トランザクション・ユーザー数※が順調に拡大、参加会社数は約1,300社に
～ 金融分野だけでなく、非金融分野の件数も好調に推移 ～



注) 金融6サイト、非金融11サイトの件数及びPV。イー・ゴルフ・サイトの件数とPV (月間1,400万PV) は含んでおりません

国内最大級に成長した金融系比較サイト

～ トランザクション・ユーザー数、提携金融機関ともに順調に拡大 ～



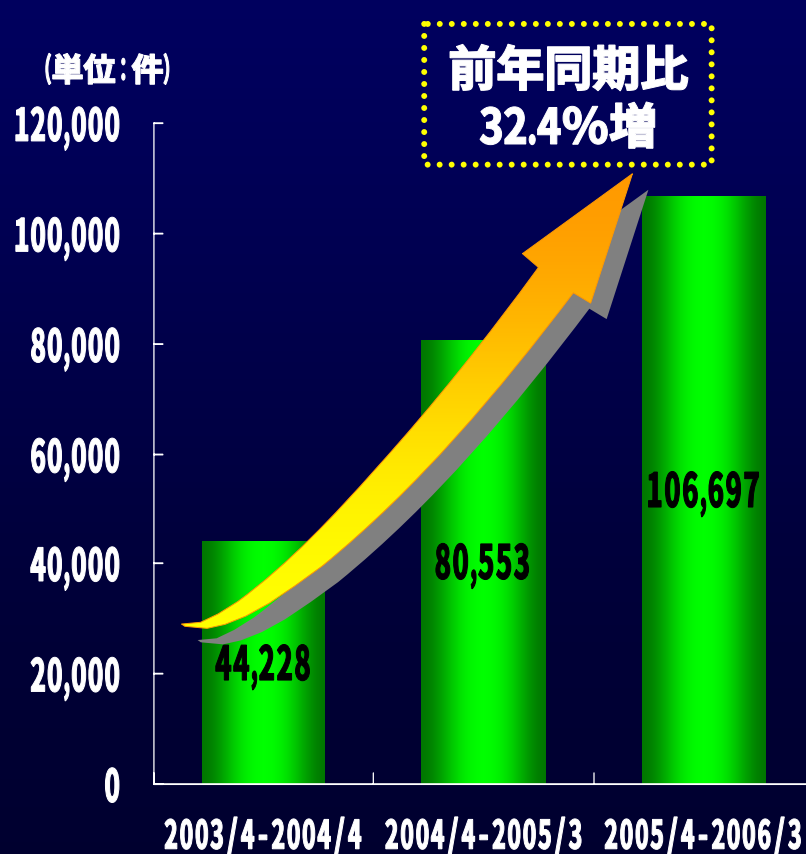
「保険の窓口インズウェブ」
損保20社・生保13社が参画

自動車保険見積もり完了数



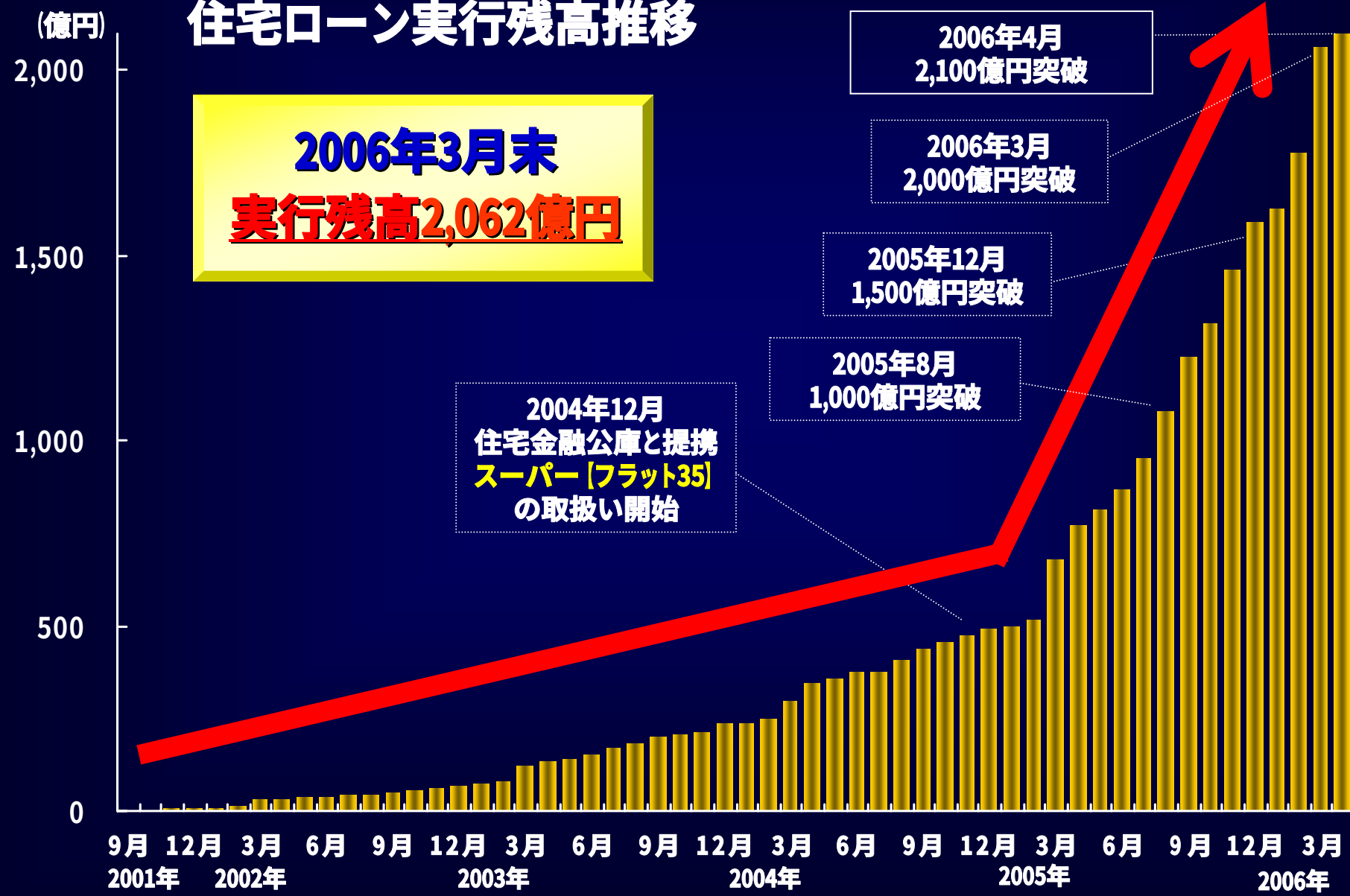
「イー・ローン」
金融機関70社超、ローン商品約560種

ローン仮申込件数



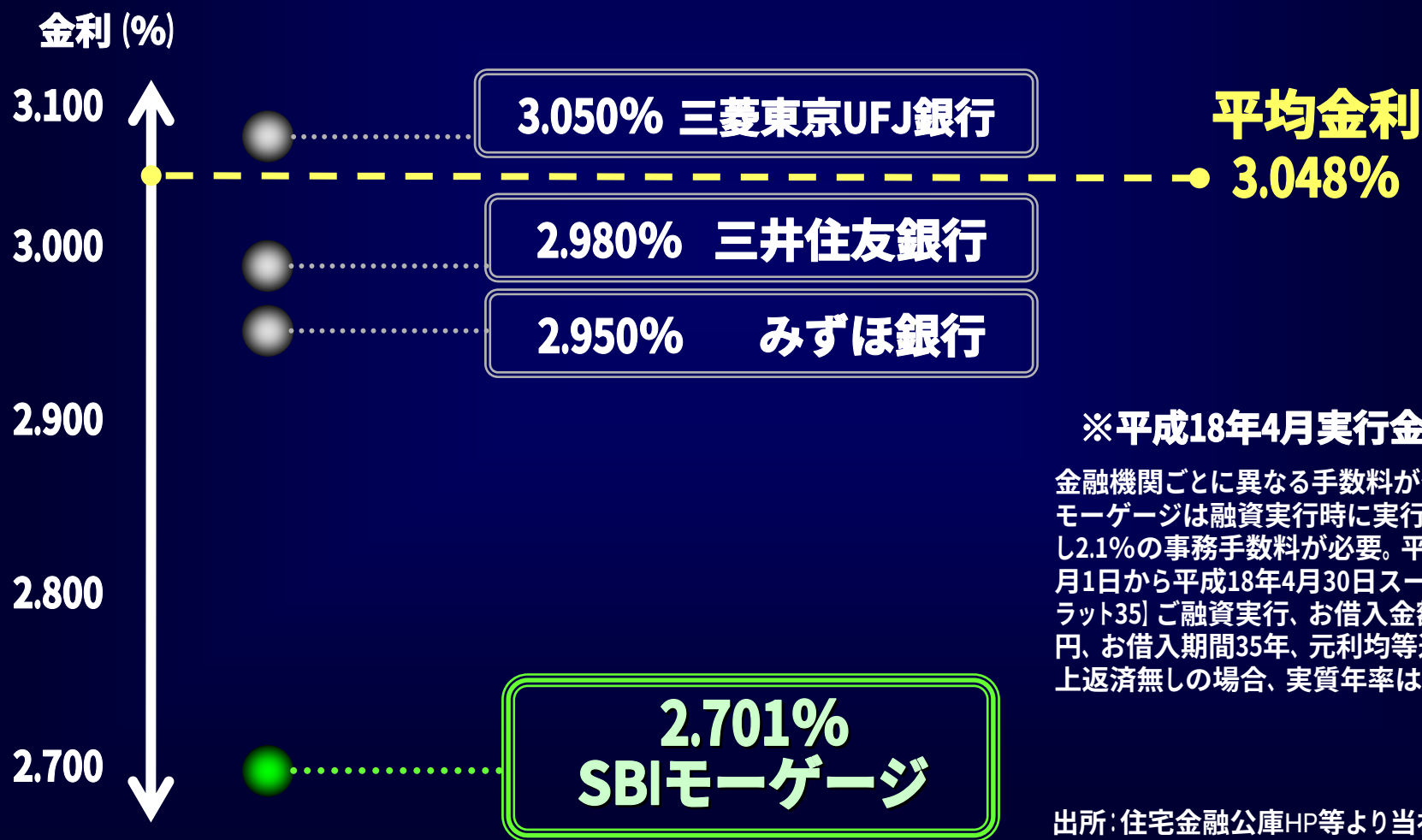
成長著しいSBIモーゲージの住宅ローン事業

住宅ローン実行残高推移



「スーパー【フラット35】」（公庫証券化ローン）の金利比較

証券化を前提とした最長**35**年固定金利。ローコストオペレーションと顧客中心主義を徹底、全289金融機関の中で**最低金利水準**を実現。



モーニングスター 連結業績 (3ヶ月)

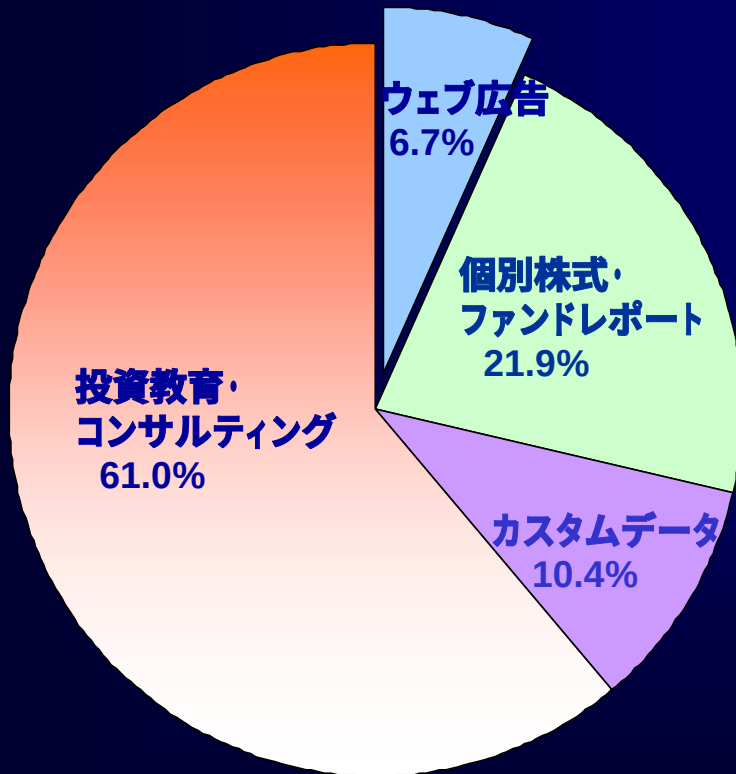
(単位: 百万円)

	2005年12月期 第1四半期 (2005年1月～3月)	2006年12月期 第1四半期 (2006年1月～3月)	前年同期比 増減率 (%)
売上高	293	438	+49.4
営業利益	60	128	+112.3
経常利益	61	189	+209.8
当期純利益	36	158	+337.7

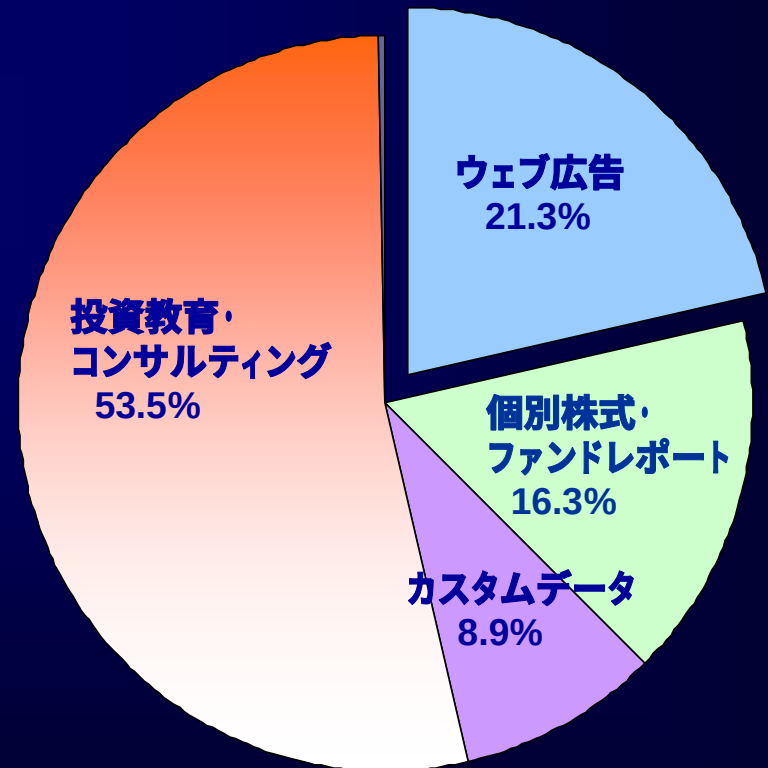
連結のPRODUCT別の売上高構成比

利益率の高いウェブ広告の売上が対前年同期比4.8倍に

2005年度第1四半期
(2005年1月～3月)



2006年度第一四半期
(2006年1月～3月)



日本郵政公社に資産運用関連の情報誌を提供

2006年3月:

- ・投信運用会社のスポンサーの協力により、フリーマガジン形態にて提供。
- ・投信販売を行っている575の郵便局に、50,000部を配布。



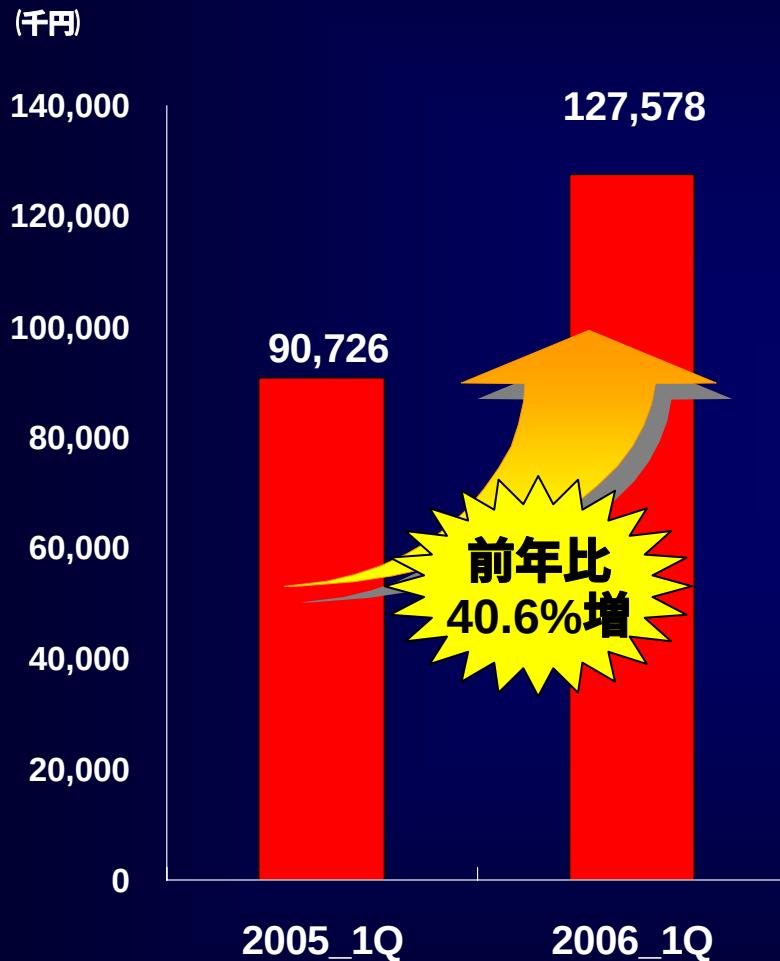
- ・投資初心者にわかりやすく、かつ読みやすい内容
- ・投信データやイラストを活用した商品説明

郵政公社2009年度末投信販売目標残高 約4兆9000億円 (当初の3倍に引き上げ)

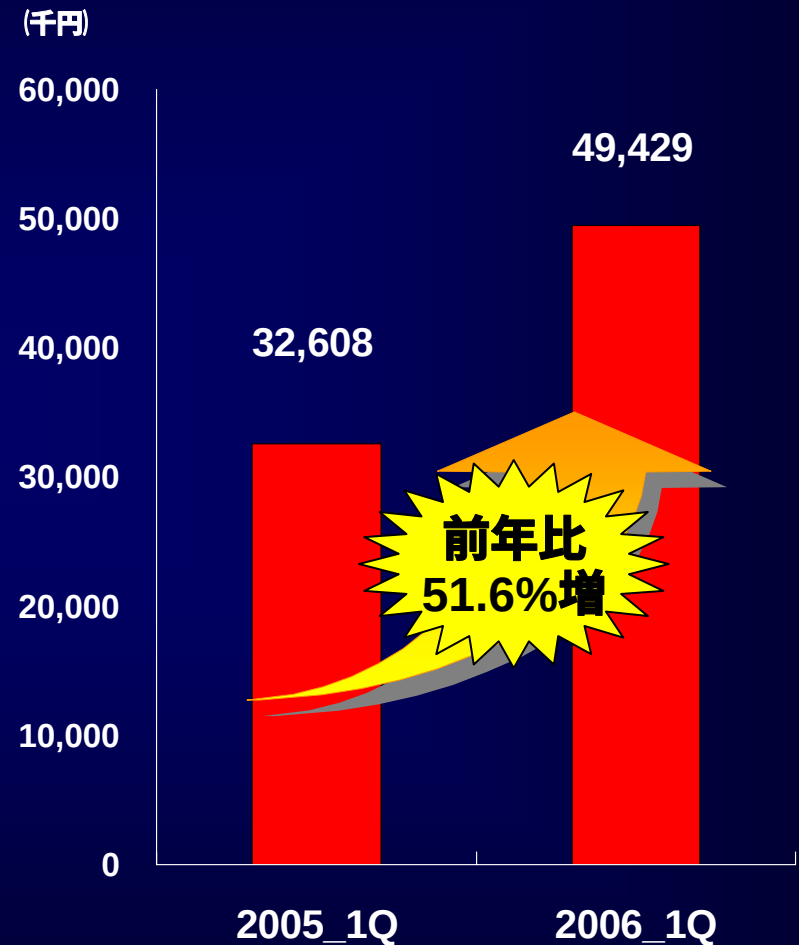
来年10月の民営化時 取扱局数1,550を計画 (現在の約3倍)

ゴメス・コンサルティング単体の業績推移

< 売上高 >



< 経常利益 >



— 株式公開準備中 —

急増する調査対象サイト数

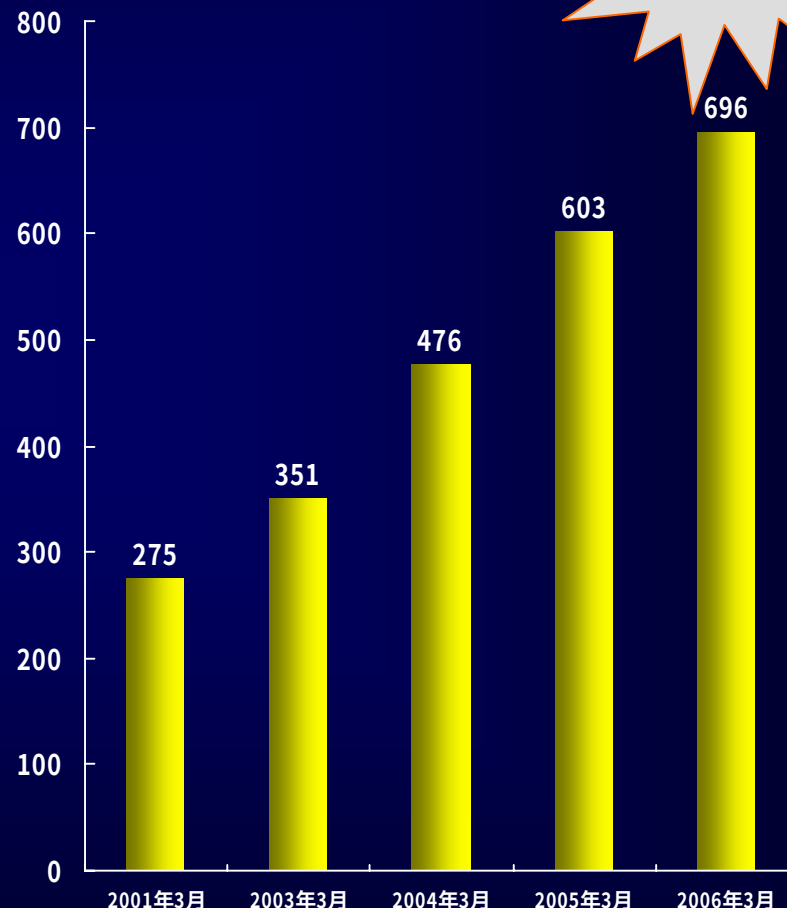
2005年3月末:46カテゴリ
(調査対象サイト数:696サイト)

ECマースランキング
オンラインバンキング
オンライン専業銀行・支店
オンライン証券 **New!**
総合証券オンライン **New!**
クレジットカード
商品先物取引
海外ツアー旅行
国内ツアー旅行
海外航空券
国内航空券
国内宿泊予約
新築不動産情報 **New!**
中古不動産情報 **New!**
賃貸不動産情報 **New!**
不動産分譲
転職情報
人材派遣
アルバイト情報
自動車保険
医療保険
オンラインショッピング
オンラインオークション
公演チケット
オンライン書店
光接続プロバイダー
中古車情報サイト
自動車メーカー
百貨店
通販化粧品メーカー **New!**
化粧品メーカー

モバイルサイトランキング
モバイルオンラインバンキング
モバイルオンライン証券
モバイルクレジットカード
モバイルアルバイト情報
モバイル中古車情報
モバイル公演チケット

IRサイトランキング
IRサイト総合 **New!**
銀行IR
証券IR
情報・通信業IR
卸売業IR
電気・ガス業IR
小売業IR
保険業IR
陸運業IR
空運業IR

調査対象サイト数の推移



696サイト

SBIベリトランス 通期業績

～ 売上高、利益の全項目において、過去最高を更新 ～

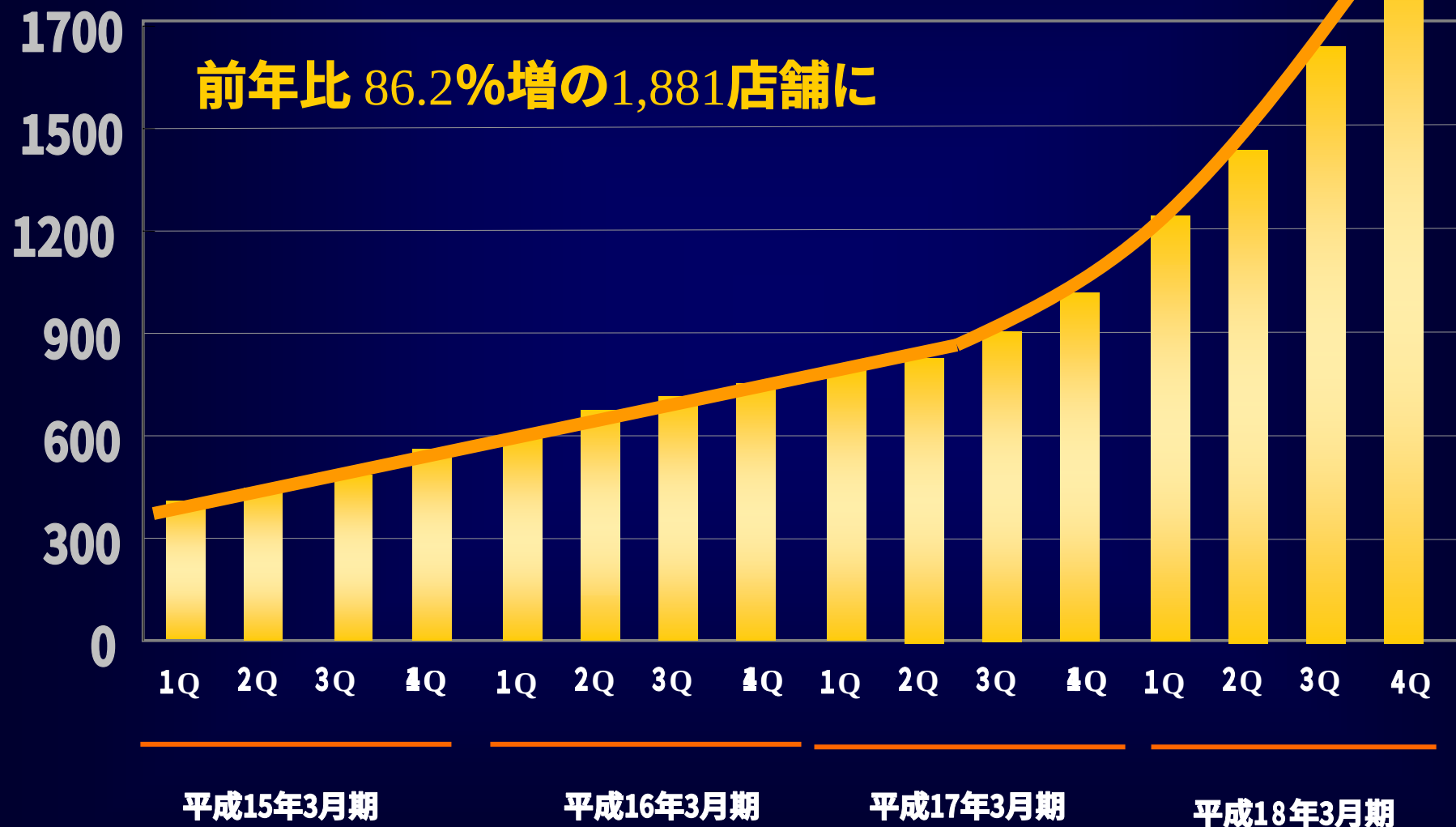
(単位:百万円)

	2005年3月期 通期 (2004年4月～2005年3月)	2006年3月期 通期 (2005年4月～2006年3月)	前年比 増減率 (%)
営業収益	944	1,916	+103.0
営業利益	221	400	+81.0
経常利益	225	395	+75.6
当期純利益	183 ※	253	+38.3

※ 2005年3月期第3四半期の当期純利益につきましては、過年度に発生した繰越欠損金の一部について回収可能性が認められたため、繰延税金資産11百万円を計上いたしました。

利用店舗数の推移

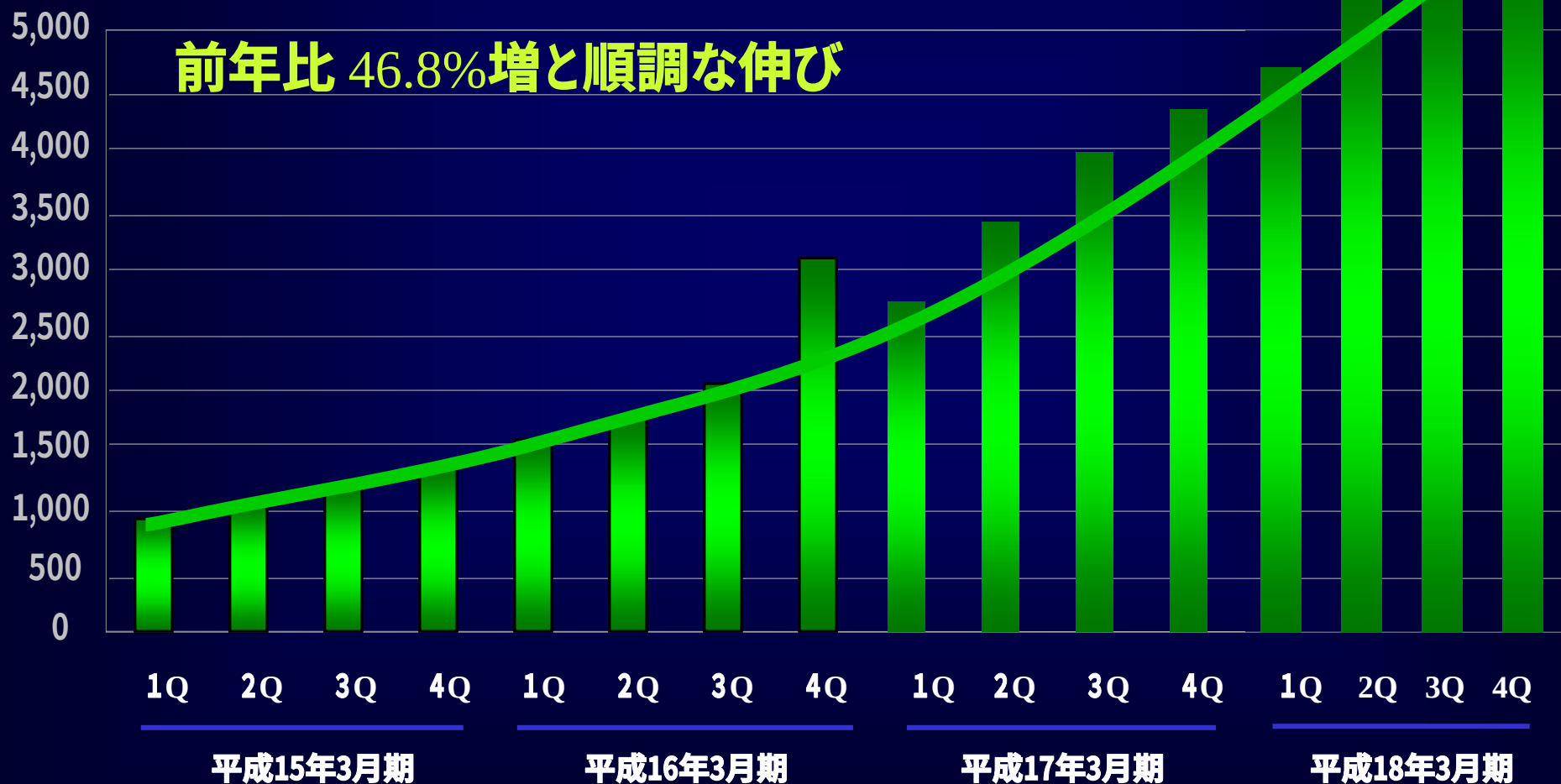
(利用店舗数)



トランザクション件数の推移

(トランザクション:千件)

前年比 46.8%増と順調な伸び



SBIイコール・クレジットの貸出実績推移

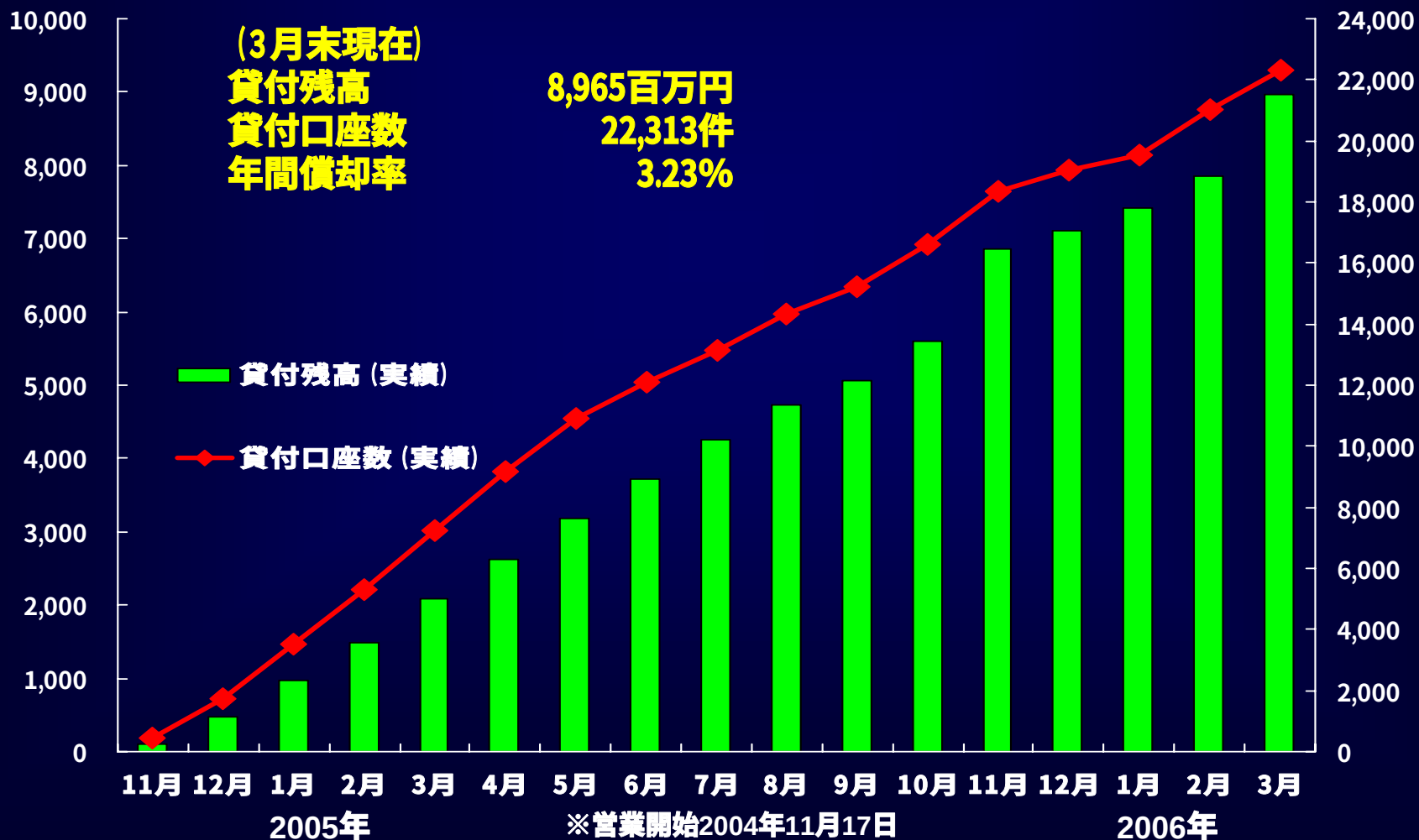
貸付残高は営業開始後16ヶ月間で約90億円！

本年夏頃には単月黒字化の見込み

2007年3月期通期でも黒字化の見込み

(単位:百万円)

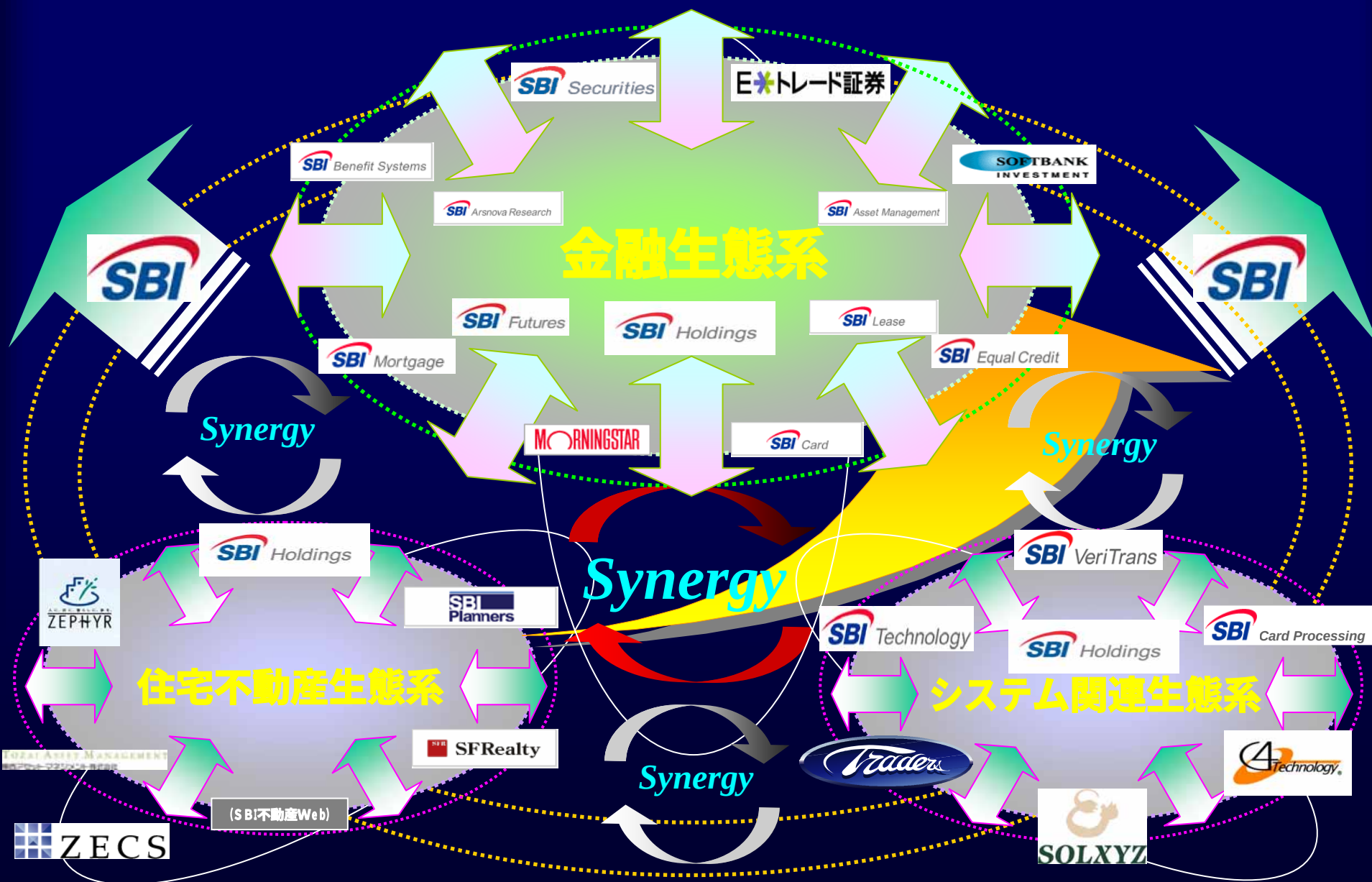
(口座数)



3. SBIグループ企業生態系の 新たな発展

- (1) 我が国最大の金融商品ディストリビューターを目指した
金融分野での企業生態系の更なる拡充**
- (2) 既存生態系と多大なるシナジーが見込める
住宅不動産分野における企業生態系の形成**
- (3) グループ内企業のシステム構築・維持管理に大きく貢献する
システム関連分野における企業生態系の形成**

企業生態系相互のシナジーによる新たな発展のステージへ



**(1) 我が国最大の金融商品ディストリビューターを目指した
金融分野での企業生態系の更なる拡充**

- ①住友信託銀行との多面的提携及びネット銀行設立**
- ②あいおい損保との損保会社共同設立**
- ③SBIギャランティ株式会社設立**
- ④SBIカード：MasterCardの仮ライセンス取得**

住友信託銀行との多面的提携による事業展開

(2005年1月17日発表)

1. ネットとリアル融合

- ・**イー・トレード証券**が住友信託銀行の信託契約代理店・併營業務代理店となる
また、銀行法改正後早期に銀行代理店となる
- ・**イー・トレード証券**が住友信託銀行と証券仲介及び市場誘導ビジネスの提携を行う
- ・住宅ローン商品の相互取次ぎ (**SBIモーゲージ**)

2. 証券と銀行の融合 (プライベート・バンキング部門)

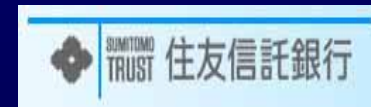
- ・住信グループからSBIグループ顧客への預金・ローン・信託・不動産等の商品・サービスと資産運用・資産管理・相続等のコンサルティングの提供
- ・**SBI証券**から住友信託銀行顧客への未上場株式組入商品等の提供

3. 商品の共同開発・共同販売等

- ・両グループが組成・運用する投資信託の相互提供 (**SBIアセットマネジメント**)
- ・新たな投資信託の共同組成 (**モーニングスター**)
- ・不動産仲介サービスのSBIグループ顧客への提供 (**SBIホールディングス**)

住友信託銀行との合併会社設立 (2005年4月3日合意)

**「新ネット銀行」設立に関する市場調査・マーケティング手法研究
などの調査・情報提供へ**



多角的業務提携

SBI住信ネットバンク設立準備調査会社

業務内容: インターネット銀行に関する調査・情報提供の受託

代表者: 代表取締役社長 田中 嘉一 (現住友信託銀行 本店支配人)

代表取締役副社長 川島 克哉 (現イー・トレード証券 取締役)

本店所在地: 東京都港区六本木1-6-1

(現SBIホールディングス本店所在地)

資本金: 40億円

株主: SBIホールディングス 50% 住友信託銀行 50%

あいおい損保との損害保険会社 共同設立へ



SBIギャランティ株式会社設立

●保証業務全般を展開する100%子会社

SBIグループにおける事業領域の拡大とそれらの事業に付随する金融サービスのより一層の拡充を目指し、さらにEコマースのトランザクション拡大にともなう品質・決済保証ニーズの高まりを受け、美術品や住宅の家賃保証など幅広い分野の商取引に係る保証業務を行う。

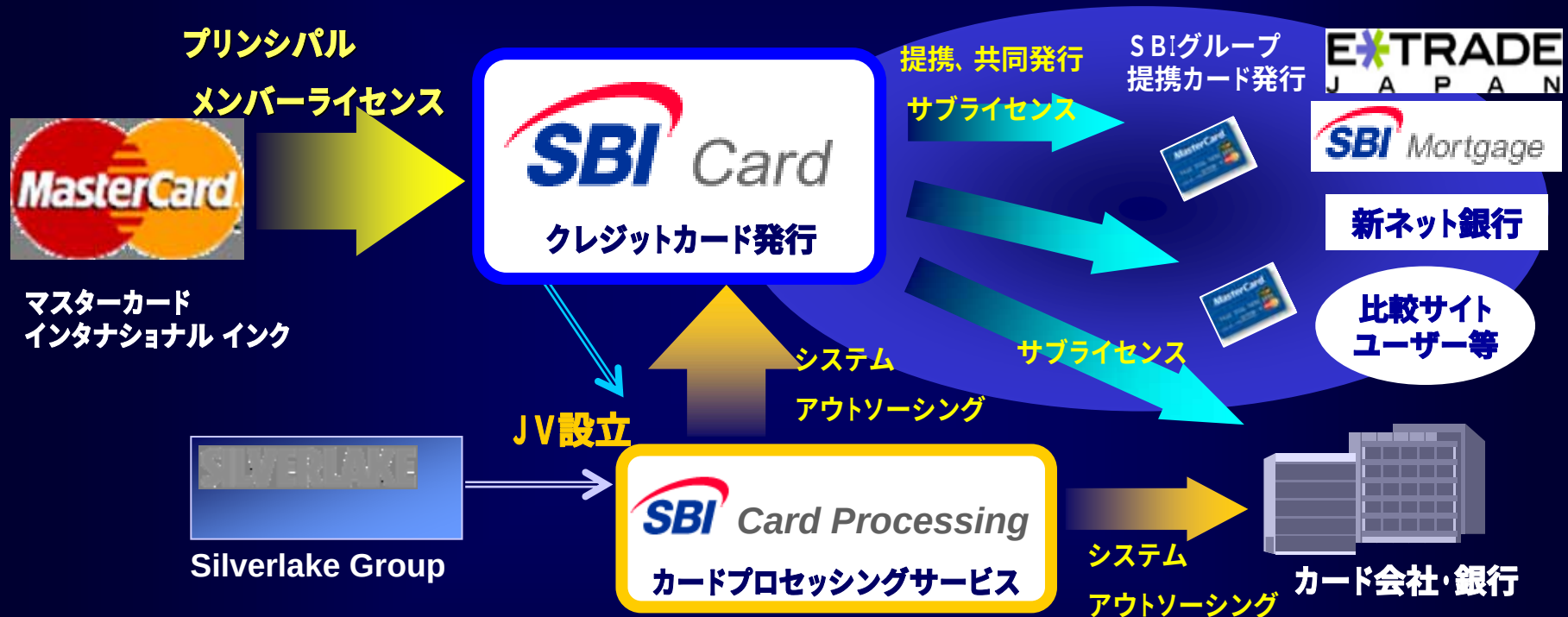
【新会社の概要】

商号	SBIギャランティ株式会社 (SBI Guarantee Co.,Ltd)
所在地	東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー
設立年月日	2006年2月2日
資本金	1億5,000万円、 資本準備金1億5,000万円
株主構成	SBIホールディングス株式会社 100%
役員構成	北尾 吉孝 (代表取締役CEO) 小林 英彦 (代表取締役COO) 城戸 博雅 (取締役)

SBIカード：MasterCardの仮ライセンスを取得

(06年7月中旬 正規ライセンス取得予定)

～ シルバーレイク社のソリューションを利用し高機能・高付加価値カードを発行 ～

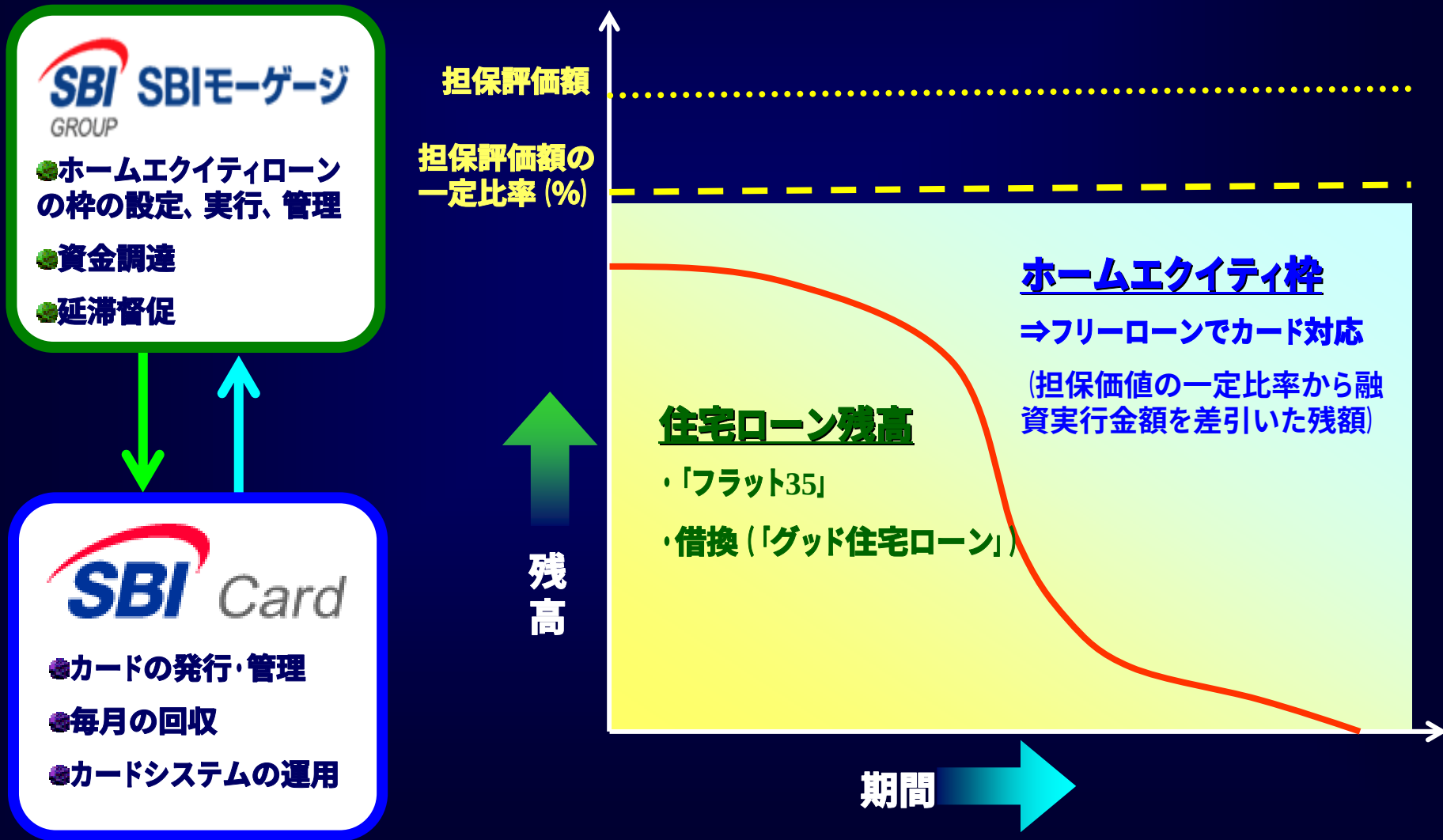


◀ スケジュール

2006年3月	マスターカードの仮ライセンス取得
	ICA No. (国際銀行番号) 付与等の発行準備開始
2006年7月中旬	正式承認 (予定)
2006年9月～	カード発行開始 (予定)

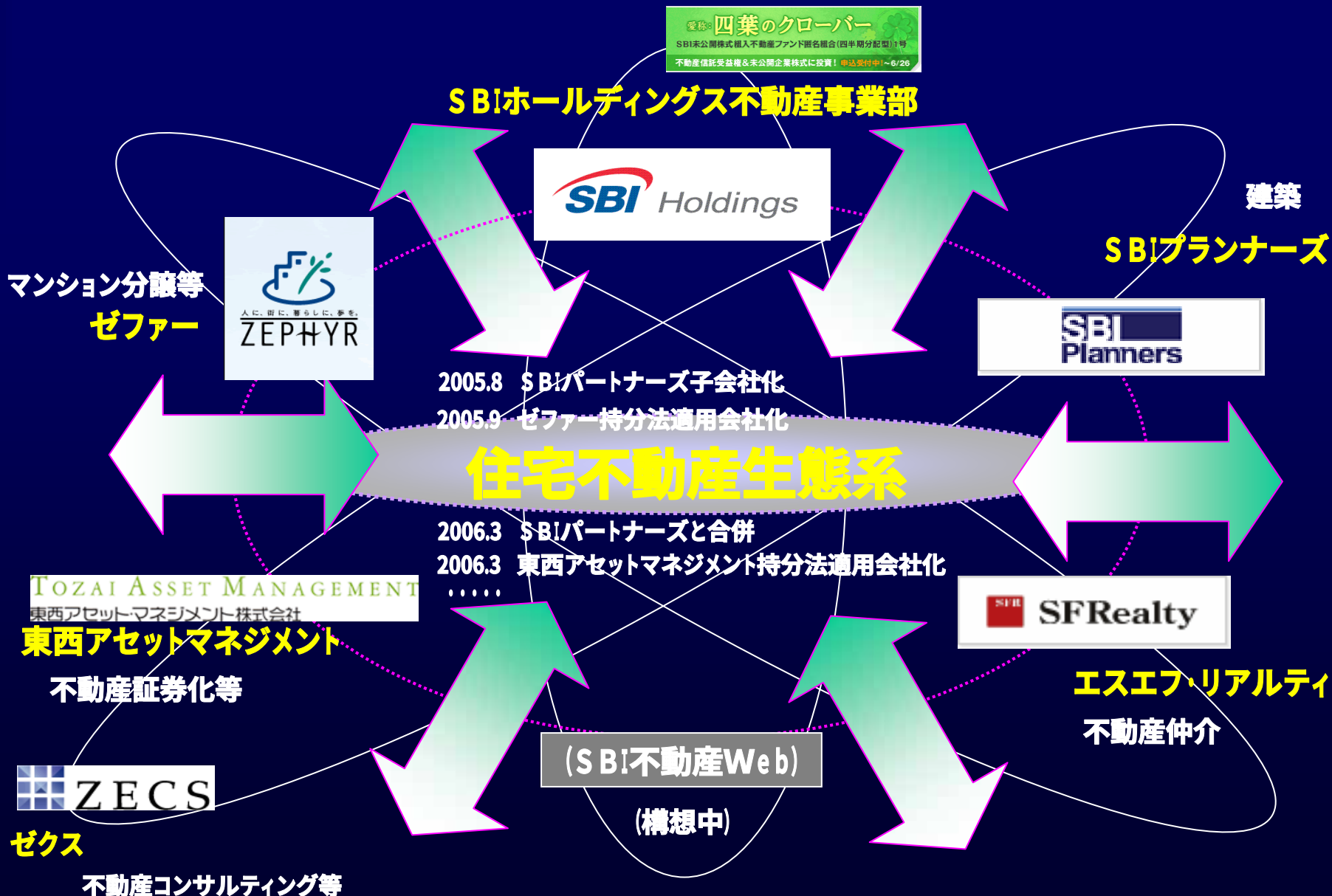
SBIカードとSBIモーゲージの協業による新ローン商品の検討

～新商品「ホームエクイティローン(案)」でカードによるローンの実行、返済を可能に～

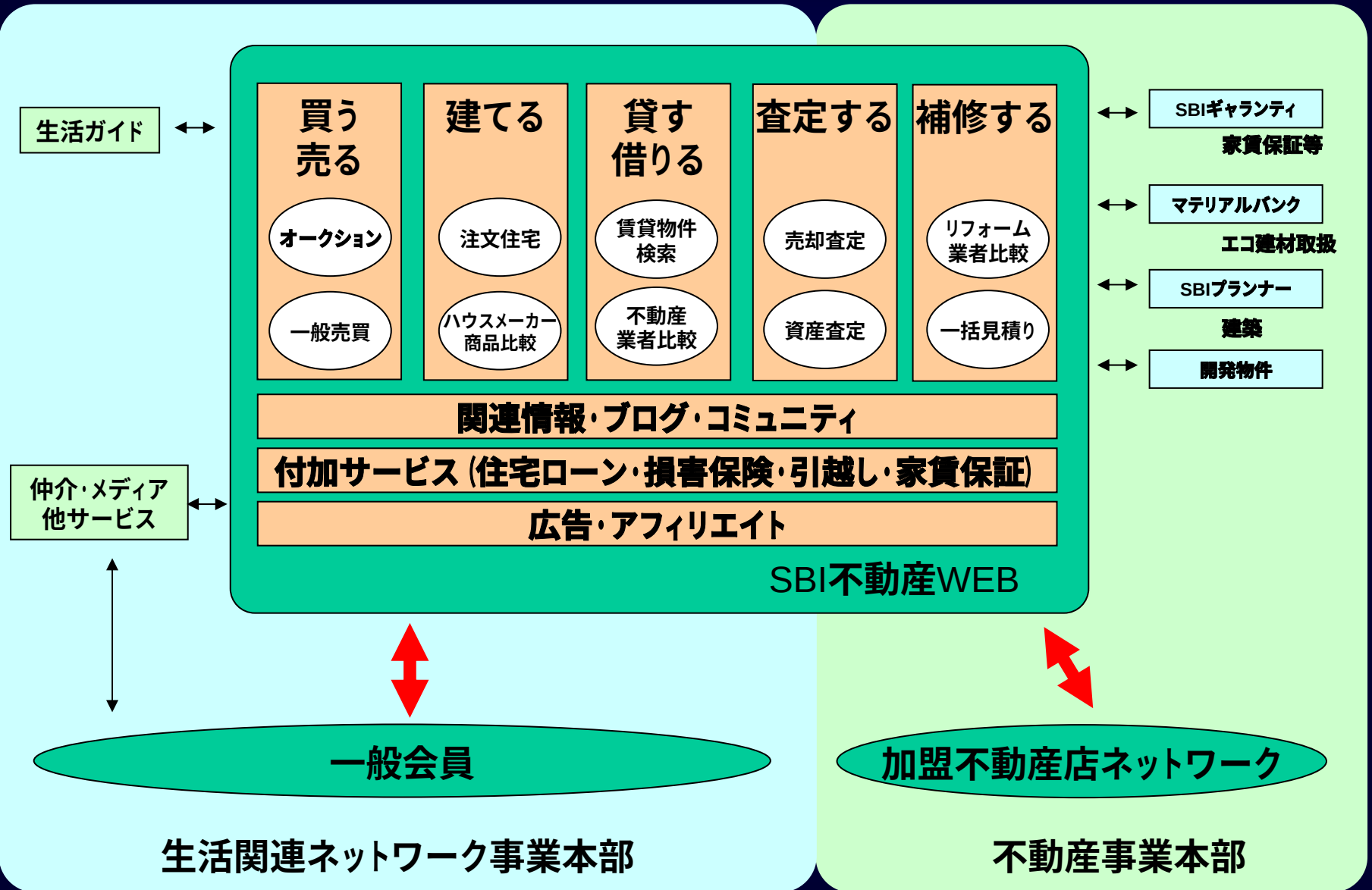


**(2) 既存生態系と多大なるシナジーが見込める
住宅不動産分野における企業生態系の形成**

住宅不動産分野においても強力な企業生態系の構築を目指す



～SBI不動産WEB構想～



持分法適用会社ゼファーが好調

～ 不動産分譲事業が好調に推移、業績予想を上方修正 ～

平成18年3月期通期 (連結) の業績予想 (2005/4/1～2006/3/31)

(単位:百万円)

	今期予想 (2006/4/18発表)	対前年 増減率(%)	前期実績 (2005年3月期通期)
売上高	95,200	+ 41.6	67,209
経常利益	8,100	+60.0	5,062
当期純利益	4,300	+ 58.9	2,706

好調な大型
物件販売



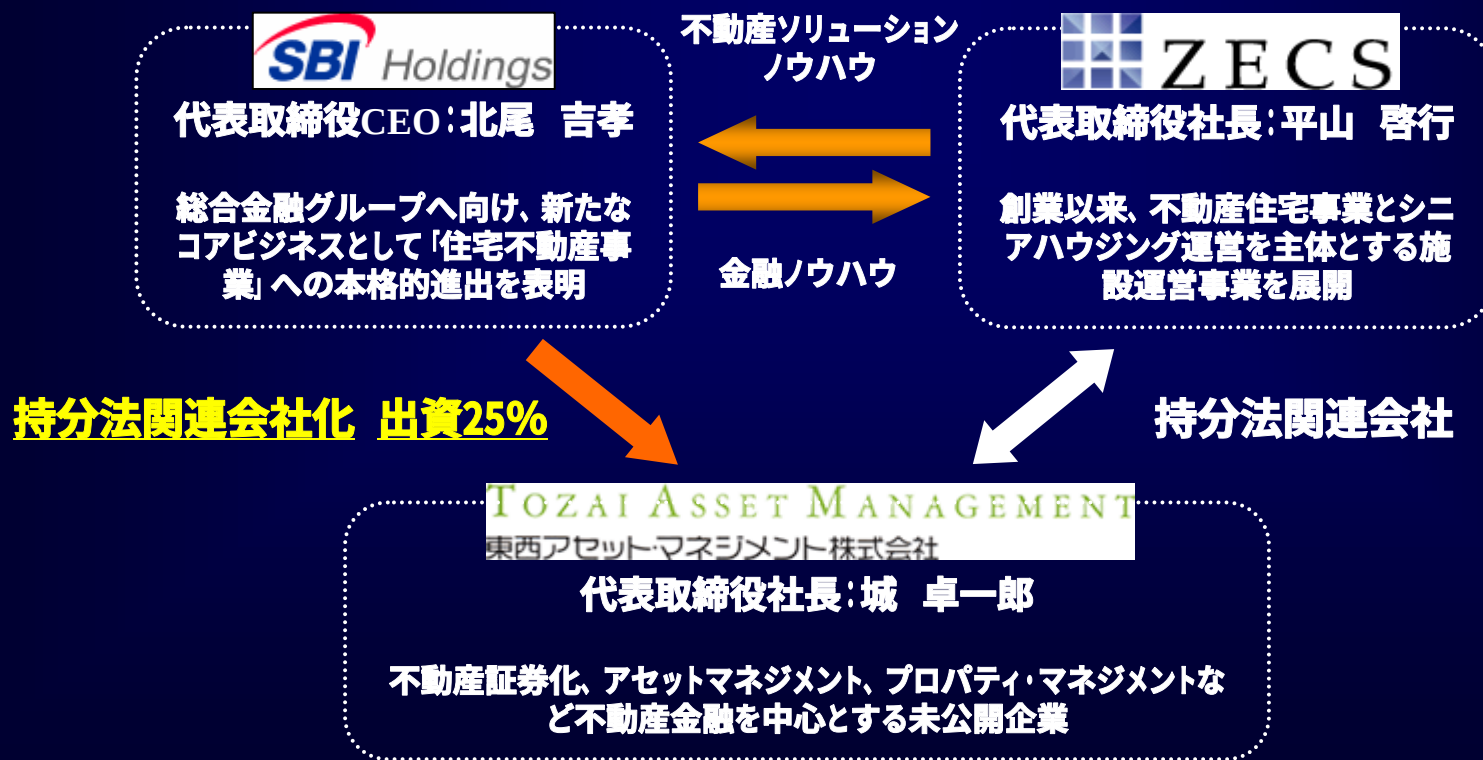
2007年3月竣工予定 全1,211戸



2007年3月竣工予定 全533戸

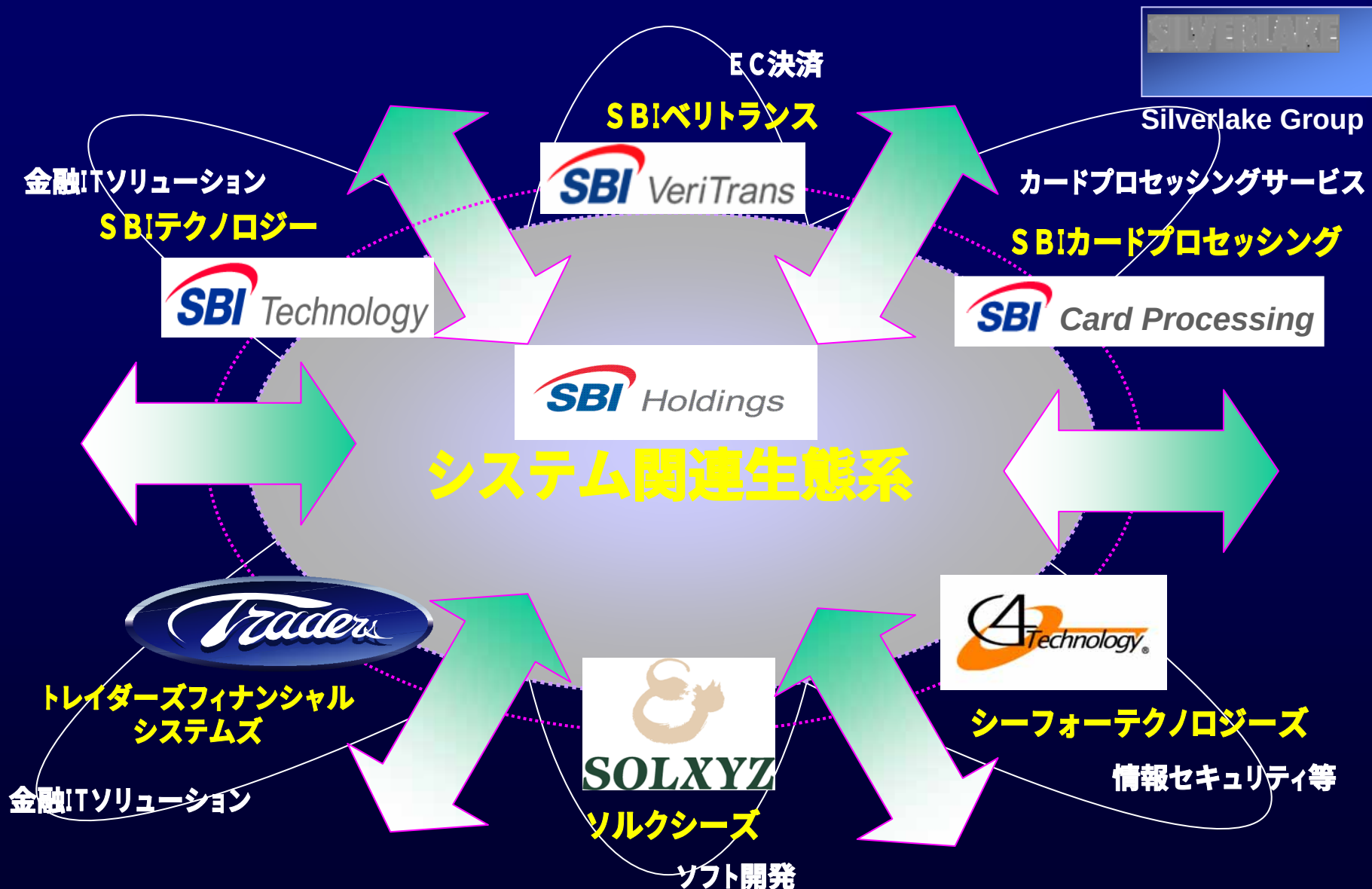
株式会社ゼクスとの同社グループ東西アセット・マネジメント株式会社への共同出資

不動産金融に強みを持つ東西アセットマネジメント株式会社への株式会社ゼクスとの共同出資を通じ、不動産ソリューションノウハウを吸収。将来的に両社の得意分野において発展的な相互協力も含めて検討。



**(3) グループ内企業のシステム構築・維持管理に大きく貢献する
システム関連分野における企業生態系の形成**

システム関連分野においても企業生態系の構築を目指す



トレーダーズ証券グループとの資本提携を強化



シーフォーテクノロジーとの業務・資本提携

シーフォーテクノロジーの有する情報セキュリティ技術・ノウハウを活用し、SBIグループ主要30社へ同社のセキュリティコンサルティングを実施。更に高度な情報セキュリティインフラを整備し、競合他社との差別化・顧客信頼性の更なる向上を図る。



ソフト開発会社ソルクシーズとの業務・資本提携

SBIホールディングスがソルクシーズ株式の21.4%を取得し、**持分法適用会社化**するとともに、SBIホールディングスとソルクシーズとの間で業務提携を行うことで合意。(2006年4月) 同社の持つ機動的なシステム開発力により、SBIグループ各社におけるシステム開発スピードの加速を目指す。



ソルクシーズ株式の21.4%を取得し、**持分法適用会社化**

資本提携



- ・金融機関向けの受託開発を得意とする独立系システムインテグレーター

SBIグループ各社のシステム開発に際したコア・パートナーとしての活用

ソルクシーズのM & A戦略推進への協力

- ・豊富な金融技術 & ネットワーク
- ・金融関連リソース

SilverlakeGroupとの合併会社設立

カードプロセッシングサービスを提供する新規事業へ参入するため、SilverlakeGroupと合併会社を設立し、日本における共同事業運営開始を合意

SBIグループ
(SBIカード)



昨年・・・事業開始
今夏・・・国際ブランドの
ライセンスを取得予定

➡ **本格的な事業展開
を準備**

SilverlakeGroup

・同業分野で優れたソリューション
・マレーシアとシンガポールに
1社ずつ上場企業を有す
さらに2社が上場を申請中

➡ **世界各地に
グループ展開を推進**

SBIカードプロセッシング株式会社設立

自社ブランド



及び他のカード会社・銀行等の

カード決済システム運営も受託する強固な事業基盤の確立を目指す

(4) 企業生態系構築による株式含み資産の増加

SBIホールディングス保有上場子会社・提携先等の 保有分時価総額及び含み益

グループ会社・提携先の企業価値を含み益として確保

2006年3月31日現在 (億円)

	SBI持ち株 シェア (%)	SBI投資額	SBI保有分 時価総額	含み損益
イー・トレード証券 ※1	51.2	122	4,358	4,236
モーニングスター	50.0	70	152	82
SBIベリトランス	40.6	4	99	95
ゼファー	21.4	153	206	53
ソルクシーズ ※2	21.4	11	12	1
住友信託銀行	0.5	100	117	17
シーフォーテクノロジーズ ※3	(14.1)	20	27	7
合計		約480	約4,971	約4,491

※1 2006年4月3日追加取得により53.2%に増加

※2 取得日 (2006年4月19日) 終値により算出

※3 保有する新株予約権付社債の新株予約権を、SBIホールディングスのみが行使したと仮定した場合

4. アセットマネジメント事業における今期の展開

- (1) ITファンド・企業再生ファンドの本格的回収期の開始**
- (2) 新規ファンドの設立**
- (3) 海外金融機関との連携強化**
- (4) 産学連携ベンチャーへの支援**

(1) ITファンド・企業再生ファンドの本格的回収期の開始

ITファンド1号・2号の今期の現金分配予定

2006年8月末頃、出資者への現金分配を実施予定

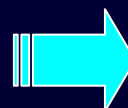
	2005年8月	2006年8月末 (予定)	出資金1億円あたり 現金分配合計 (予定)
ITファンド1号	3,000万円	約1億円	約1億3,000万円
ITファンド2号	3,300万円	約9,000万円	約1億2,300万円

ITファンド1号・2号分配総額:

2005年8月 約411億円

2006年8月末 (予定) 約1,248億円

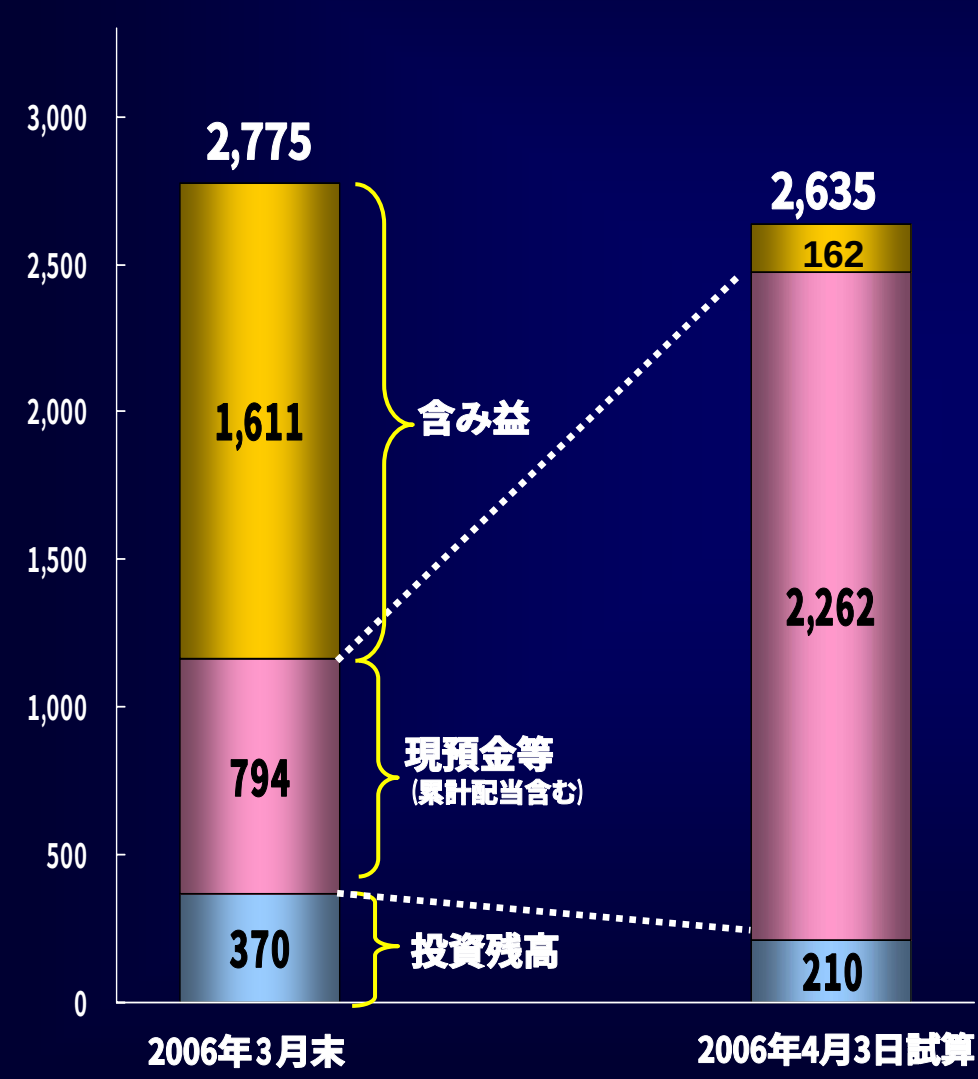
合計 (予定) 約1,659億円



SBI受取予定額
527億円

ITファンド所有のイー・トレード証券株式売却による連結業績への影響

(単位: 億円) **平成19年3月期税引き前利益に与える影響額は598億円の見通し**



3/31現在SBI持分
42.4%
(639口/1,505口)

イー・トレード証券株式売却が平成19年3月期当社連結業績に与える影響額の見通し:

- (1) 売上高 130億円
内訳: 成功報酬 130億円
- (2) 営業利益 130億円
- (3) 特別利益 468億円

※上記見通しは、試算額であり今後変更が生じる可能性がございます。

ITファンドによるイー・トレード証券株式の売却先について

- ・証券会社を通じ150社以上の機関投資家に販売される。
- ・SBIホールディングスも追加購入し、持分を上昇させる。

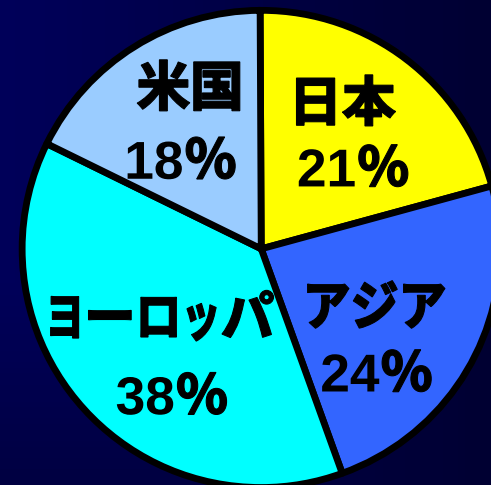
発行済株主総数に対する割合

異動前

(2006年4月3日)

異動後

	異動前	異動後
SBIホールディングス	51.2%	53.2%
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド 2号	14.4%	0.0%
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド 1号	3.6%	0.0%
ソフトバンク・インターネットテクノロジー・ファンド 3号	1.0%	0.0%
ソフトバンク・インターネットファンド	0.4%	0.0%
その他	29.5%	46.8%



購入した機関投資家の
国別構成比

SBIキャピタル運営ファンドによる建設足場大手「信和」株式の譲渡

2007年3月期SBIホールディングス連結業績への影響見込み額：
連結売上高 約81億円 **連結経常利益 約68億円**

対象となる会社の概要：

商号： 信和株式会社

代表者： 代表取締役社長 山田 博

所在地： 岐阜県海津市平田町仏師川30-7

主な事業内容： 建設用仮設機材の製造及び販売

従業員数： 92名 (2006年3月末)

売上高： 100億58百万円 (2006年3月末見込み)

営業利益： 15億27百万円 (2006年3月末見込み)

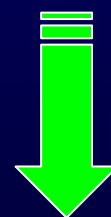
株式の譲渡先：

コスメティクス・グローバル・ホールディングス・ジャパン(株)

本株式譲渡案件IRR 約87% ※

2003年12月：

運営ファンドにより株式100%取得



- ・内部管理体制の整備
- ・経営陣と共同での
経営戦略策定・実践・・・

2006年3月期：

過去最高水準の売上・利益を
達成の見込み

(2) 新規ファンドの設立

「モバイルファンド」 新規設立へ

インターネット産業
の市場規模

モバイル関連企業へ
投資

ブロードバンド関連企業へ投資

国内のインターネット
関連企業へ投資

SBI ブロードバンドファンド

SBI ビービーメディアファンド

モバイルファンド
合計420億円を
目指す

米国のインターネット
関連企業へ投資

ソフトバンク・インターネット
テクノロジーファンド

ソフトベン2号

ソフトバンクベンチャーズ

95'~96'

99'~00'

04'~05'

06'~

米国のインターネット産業成長期 日本インターネット産業成長期

ブロードバンド産業成長期

モバイル&ワイヤレス産業成長期

SBIグループの
投資フェーズ

米国企業向け
ファンド設立

インターネットへ

ブロードバンドへ

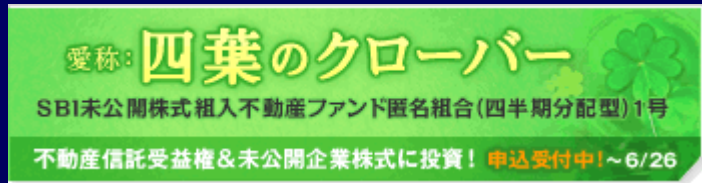
メディアへ

モバイル&ワイヤレス

SBIグループは今後、年金資金の取り込みも目指す

“未公開株式組入”不動産ファンドの組成

第1弾を150億円上限で募集中
第2弾も100億円規模を予定



(概要)

名称: SBI未公開株式組入不動産ファンド
匿名組合(四半期分配型)1号

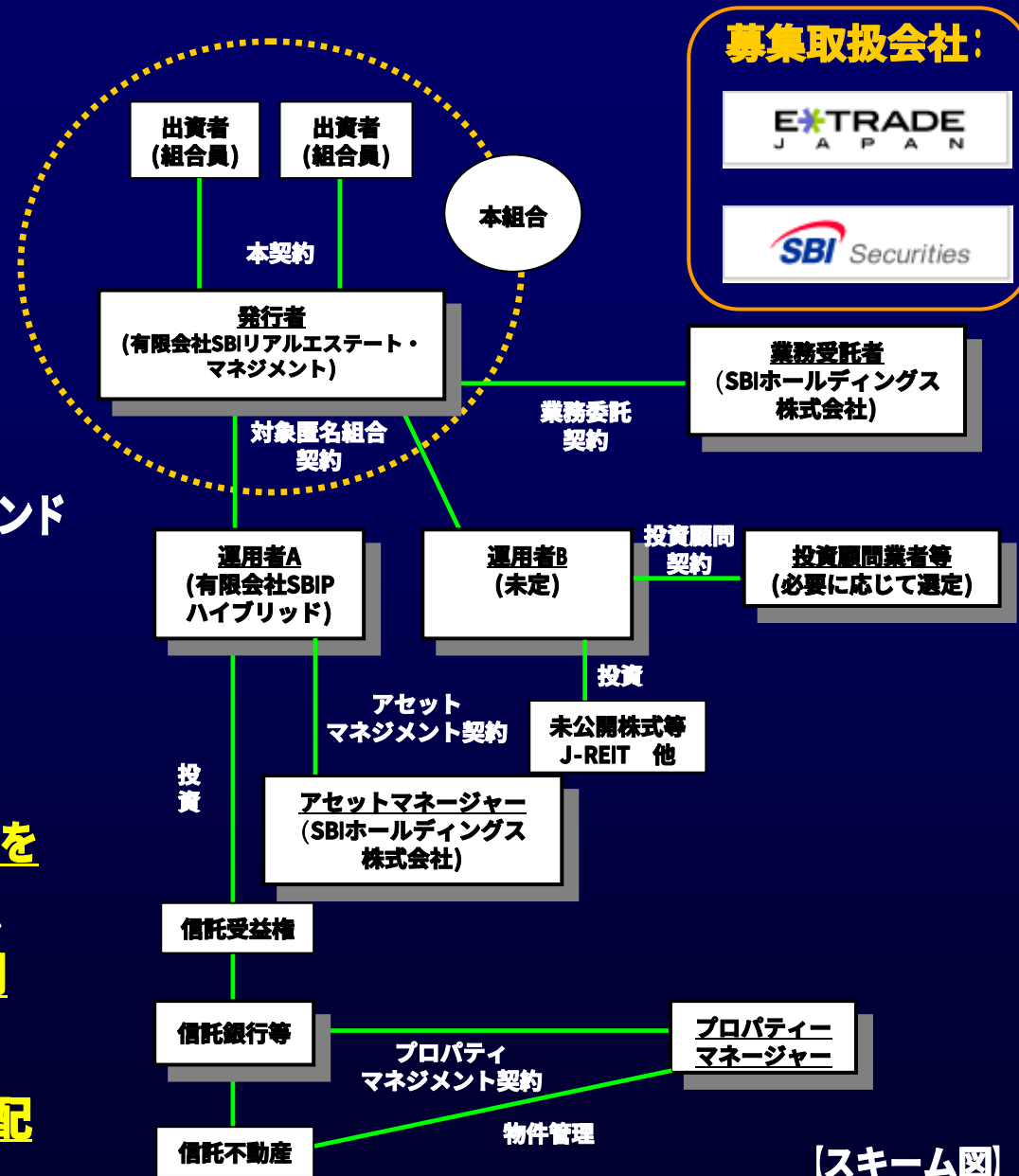
愛称: 四葉のクローバー

総額: 150億円を上限とする

投資対象:

匿名組合出資金のおおむね80%以上を
間接的に不動産信託受益権に投資し、
また20%を上限として間接的に未公開
株式等に投資

分配方針: 原則として四半期ごとの分配



[スキーム図]

SBIキャピタルによる新規ファンド設立

①東京都の「新銀行東京」を主たる投資家とする首都圏企業再生ファンドの設立



②国内中小型公開株を対象とするバリューアップ投資 (予定)

(3) 海外金融機関との連携強化

海外金融機関との資本関係を含めた 金融・投資分野での連携強化を目指す

中国



- ・シンガポールのテマセクと共同で投資ファンド設立
- ・北京駐在員事務所の開設
- ・联想グループのLegend Capital運営ファンドへの出資

インド



- ・タタ財閥運営ファンドへの出資
- ・インドの代表的金融機関とのVC合併設立を検討
- ・インド株式ファンドの日本での販売(検討中)

韓国



- ・有力ビジネスパートナーとの資本関係を含めたタイアップ(検討中)



(4) 産学連携ベンチャーへの支援

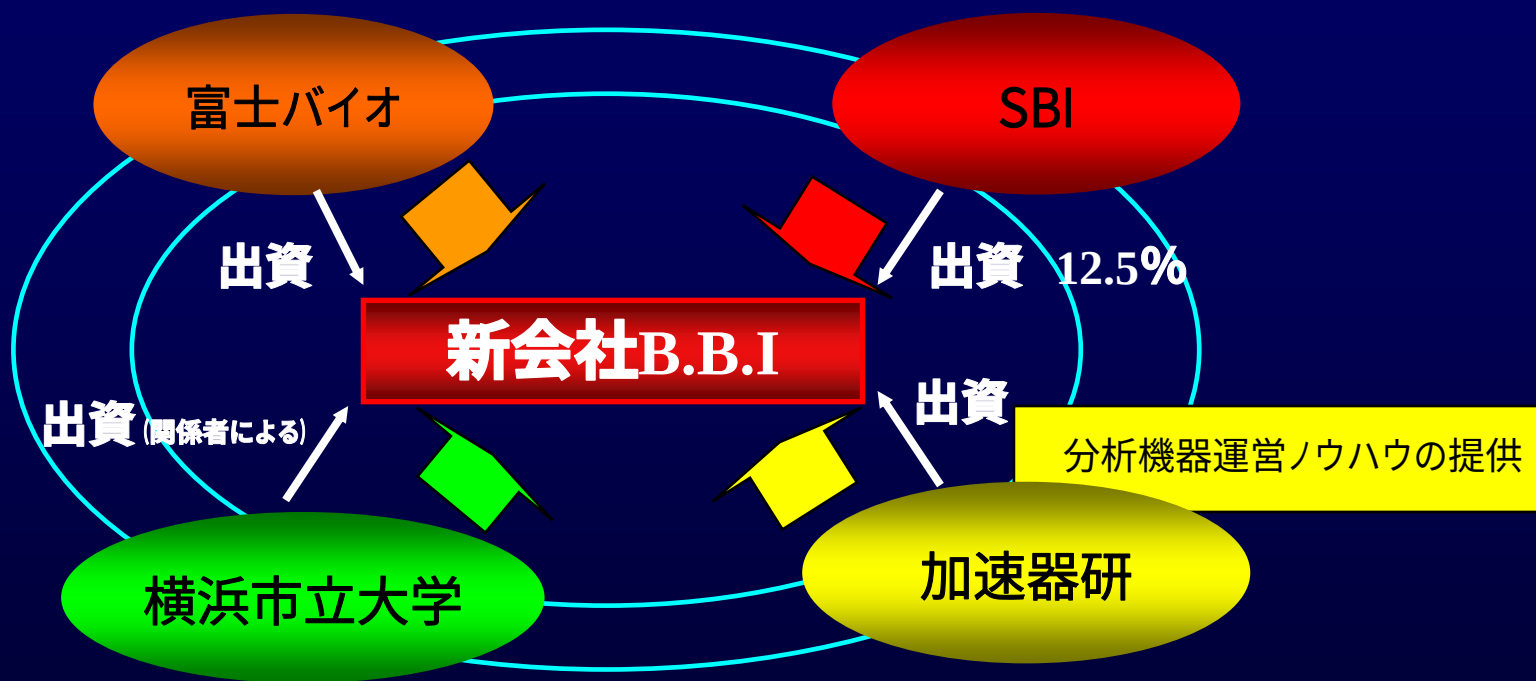
産学連携ベンチャーへの支援

新薬の開発期間・コストの大幅な削減を目指す新会社を共同設立

(2006年4月3日)

高額機器の購入 (新会社にリース)
CROの有効活用
プロトコール作成、契約書等作成ノウハウ

経営ノウハウの提供
新規ビジネスの創出
大学への寄附講座提供 (CEO提供)



病院施設の提供 (ベンチャー企業が利益が出た場合に利益還元)
大学職員 (知財) の有効活用 (担当教授の人脈・ノウハウ)
事務所スペース及び大学設備、光熱費等

大学サイドのメリット

最先端機器導入による研究の質の向上
大学発VB創出による職員・学生のモチベーションUP
大学の知名度UP (学生や共同研究企業へのアピール)

中国清華大学との提携模索について

～ 産学共同ファンド設立にむけて ～

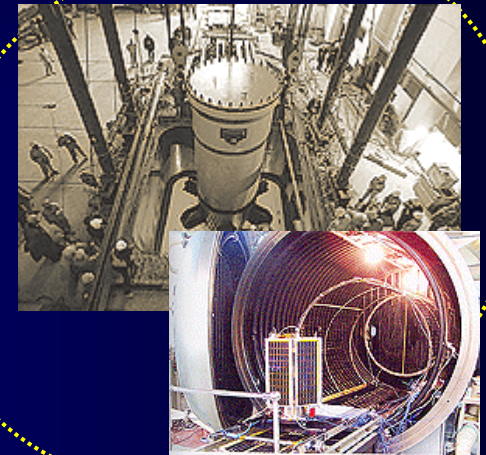
IT産業



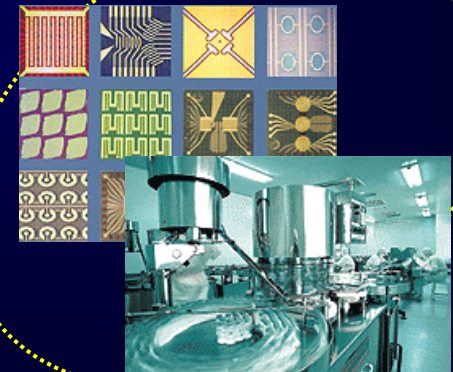
環境エネルギー



ハイテクノロジー



ライフサイエンス



5. SBIグループ各社における 積極的株主還元

SBIホールディングス 2006年3月期利益配当案

2006年2月22日:

配当予想の上方修正 (合併記念配当の実施) を決議

前期比+250円 (71%増) となる大幅増配へ

(1株につき)

	中間	期末		年間
		合併記念配当	普通配当	1株につき
2006年2月22日 上方修正	—	100円	500円	<u>600円</u>
2005年3月期実績	—	—	350円	350円

SBIホールディングス 自己株式の取得

株式相場下落局面において、自己株式の買受けを決議・実施

- | | |
|----------|------------------------|
| 1. 買付期間 | 2006年2月17日から2006年2月24日 |
| 2. 買付株式数 | 5万株 |
| 3. 買付総額 | 2,901,493,700円 |
| 4. 買付方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

1株あたり買付額平均：約58,030円

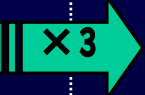
自己株式取得終了時（2006年2月24日）の自己株式保有状況：

発行済株式総数（自己株式除く） 9,602,600.09株

自己株式数 61,141.41株

イー・トレード証券 今期の利益配当案

普通株式1株につき、1,600円の普通配当を実施する予定。(2006年2月1日効力発生 of 1対3の株式分割考慮後。) 分割考慮前では4,800円となり、**前期の2,300円(記念配当含む)から2,500円増額**の大幅増額配当となる。普通配当では前期比3倍以上。

	2006年3月期 (今期)		2005年3月期 (前期)
	1株につき (分割考慮後)	(分割考慮前)	1株につき
普通配当	1,600円	 4,800円	1,500円
上場記念配当	—	—	800円
合計	1,600円	 4,800円	2,300円

※2006年2月1日をもって普通株式1株を3株に分割。

モーニングスター 今期の利益配当案

2006年1月19日発表

前期比実質78%増となる大幅増配を予定

(1株につき)

	2005年12月期 (今期)	2004年12月期 (前期)
期末配当金	400円	450円 (分割考慮後225円)

SBIベリトランス 株式分割実施

2006年1月23日発表

1対3の株式分割を発表

基準日：2006年3月31日

効力発生日：2006年4月1日

6. その他

- (1) 新卒採用の開始及びSBIユニバーシティの設立
- (2) SBIグループのCSR活動

(1) 新卒採用の開始及びSBIユニバーシティの設立

人材の育成①

初の新卒採用の開始

【新卒採用の狙い】

- ・ 急速に拡大するSBIグループの未来を担う優秀な幹部候補の確保
- ・ 独自の企業文化を育み、継承する人的資源の育成

今春新卒43名を採用

来春は倍増の採用を予定

人材の育成②

SBIユニバーシティの設立

多彩な講師陣

北尾吉孝

田坂広志

孔建

Steve Chang
(Trend Micro創業者)

Joe Mansueto
(Morningstar Inc.創業者兼CEO)

ベンチャー経営者

・

・

SBI
UNIVERSITY

人間学

経営学

国際性

財務、経理、戦略
マーケティング

グローバルな提携

アメリカ、中国、インドの大学、
B-Schoolと連携模索



インターネットも駆使し、
社外の人材も含めたオープン・ユニバーシティ
志の高いビジネスパーソンのための知的鍛錬の場

(2) SBIグループのCSR活動

SBIグループのCSR (企業の社会的責任)

SBI独自のCSR “3つの視点”

信

【信用・信頼の獲得】

内部監査体制の強化

コーポレート・コミュニケーションの強化

個人情報保護

開かれた雇用機会と公正な処遇

義

【“正しい”事業の創造と遂行】

顧客中心主義の徹底

新産業の創造と育成

革新的金融サービスの提供

社会貢献につながる事業の推進

仁

【直接的な社会貢献】

財団法人を通じた児童福祉の向上

医学分野への研究助成

SBIグループのCSR (企業の社会的責任)

3つの視点「信」「義」「仁」の観点より、
SBIグループのCSRに関する取り組みを紹介



信

SBIグループが自己の信用を保ち、
信頼される金融グループを
目指して行ってきたこと

義

SBIグループが社会的正義に照らし、
正しいと思い、行ってきたこと



仁

SBIグループが社会のために考え、
行ってきたこと



SBIグループの直接的社会貢献活動

財団法人**SBI**子ども希望財団を通じて活動を強化

	寄附実施数 (施設)	金額 (百万円)
2004年度 (SBIグループとしての活動)	173	167
2005年度 (財団としての活動)	105	155

寄附予算額
2億円

財団法人としての2005年度の活動概況

- ・**自立支援も視野に：** 被虐待児の自立支援関連施設を寄附対象に追加
- ・**自治体との連携拡大：** 42都道府県 (前年比+3) 9政令指定都市 (同+1)
- ・**実情重視の寄附選定：** 寄附先との面談・訪問を積極的に実施。
より実情を重視して寄附先を選定

より直接的な支援の実施

埼玉県にて被虐待児の心の障害に対する短期治療 を行う施設を建設予定

施設名： 「子どもの心のケアハウス (仮称)」

設置予定地： 埼玉県比企郡嵐山町

運営法人： 社会福祉法人 慈徳院 (仮称)
(理事長：北尾吉孝)

開設時期： 平成19年秋 (予定)

(記事)

**埼玉県にて予算化決定
国庫協議に向けて準備中**



SBIチャンネル

SBI Channel

SBIグループの情報を動画でお知らせいたします。

SBI

SBI
GROUP
Channel

SBIグループの事業戦略などをホームページにて配信中！ 相場の状況に応じた特別企画なども随時放送！



1月6日配信
今年にかける



1月20日配信
特別企画
ライブドアショック
について



1月30日配信
SBI経営の原点



2月9日配信
イー・トレード証券社長 井土太良

Inside SBI
グループ企業トップに聞く



2月24日配信
特別企画
株式相場について



3月9日配信
新生SBIグループの
門出にあたって



3月30日配信
損保会社設立とネット
銀行のビジョン



2月17日配信
旧ファイナンス・オール COO
伊藤雅仁
SBIモーゲージ COO
円山法昭



3月20日配信
SBIペリトランス COO
沖田貴史
SBIイコール・クレジット COO
石井一希

<http://www.sbigroup.co.jp>